

715

452

支那事変に於ける帝国海軍の行動
海軍省海軍々事普及部編
(癸端より南京攻略迄)



0057752001

0057752-001

715-452

支那事変に於ける帝国海軍の行動

海軍省海軍々事普及部・編

海軍省海軍々事普及部

其の1-3

昭13至15

AJG



昭和十二年一月

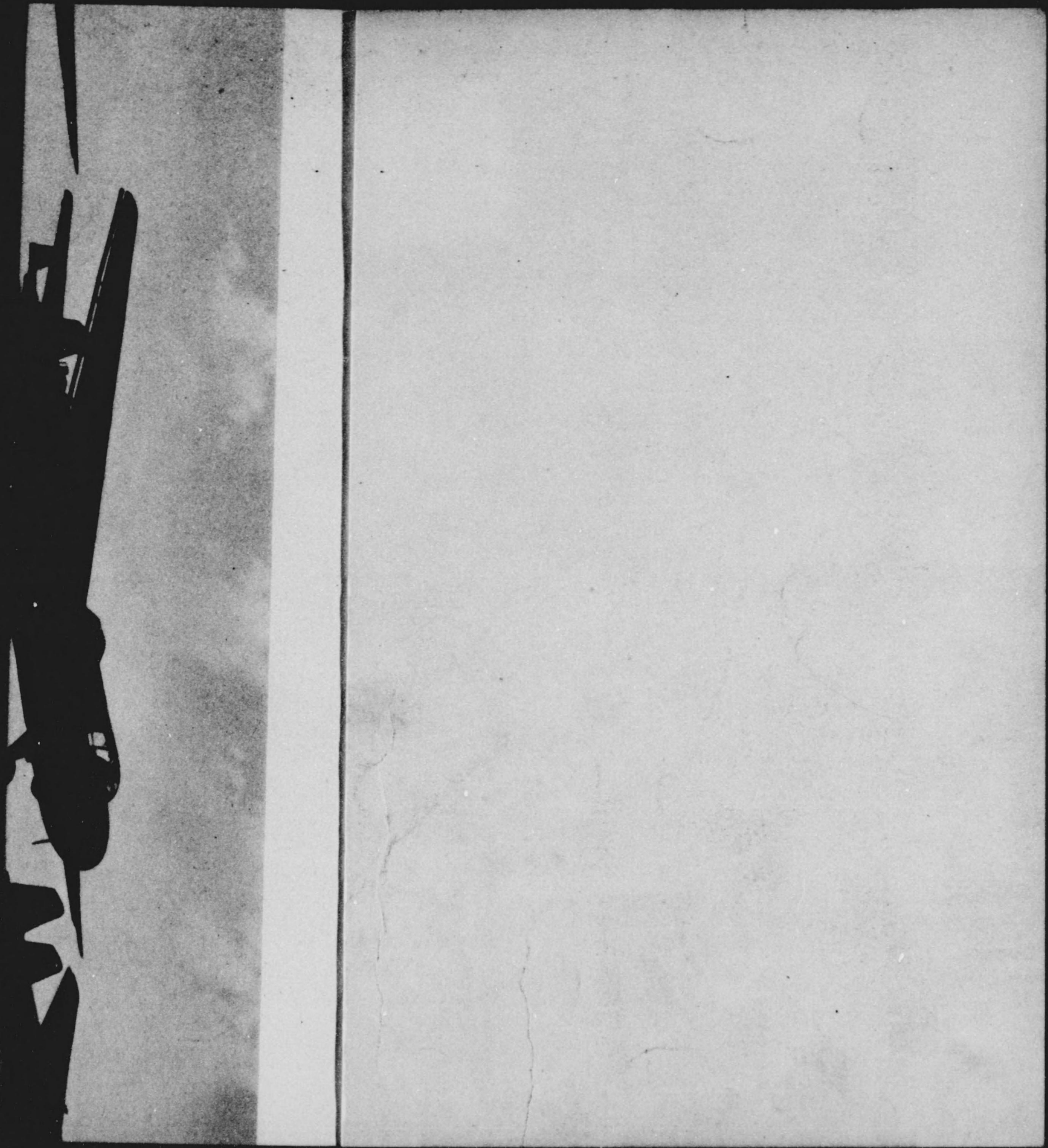
715
X
452

480

及那事變に於ける帝國海軍の行

(發端よ) 南京攻

海軍部 軍務普及部



鷺荒の海をすくとんか就に途壯

船 荒 の 海 ら す と ん か 就 に 途 壯

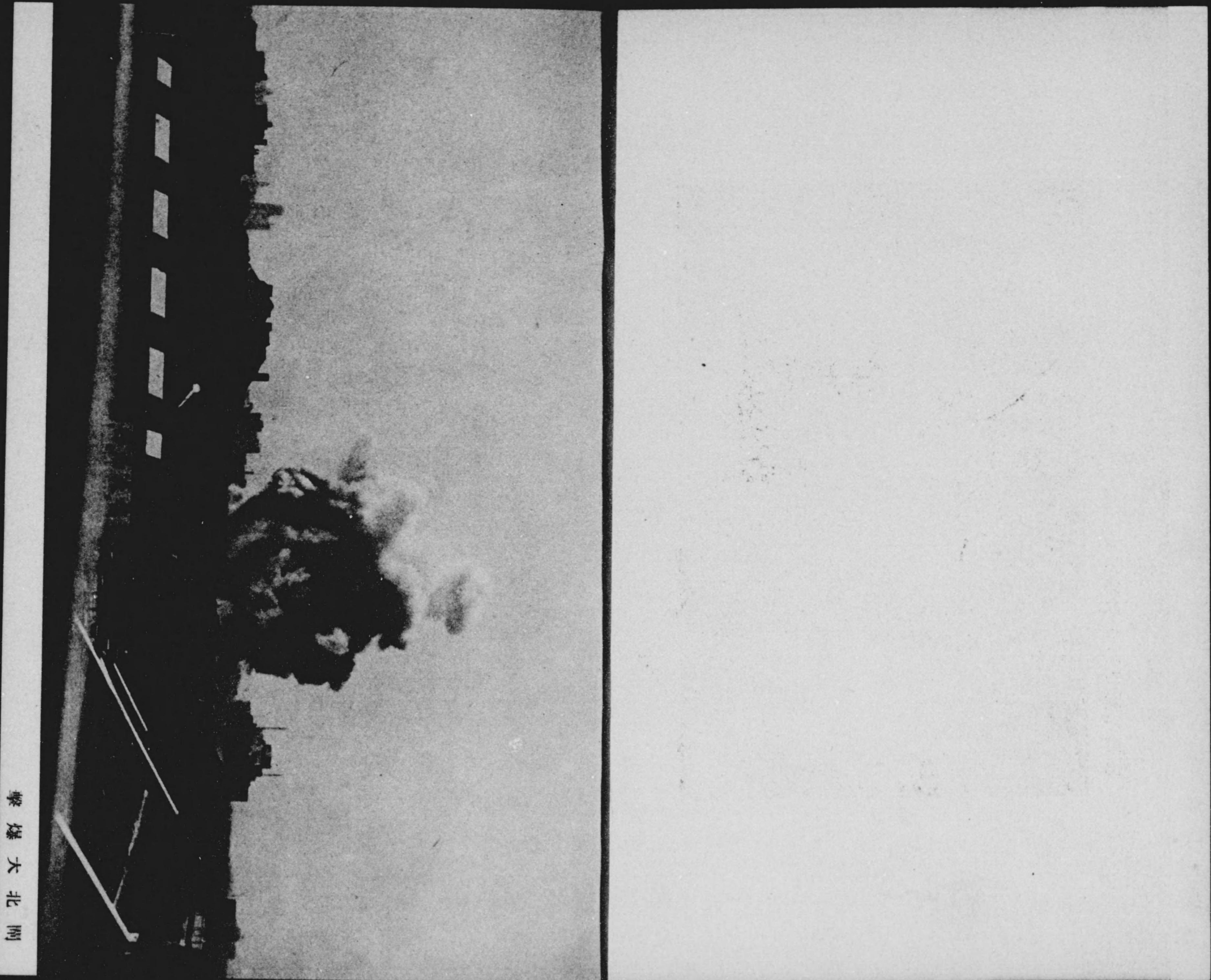




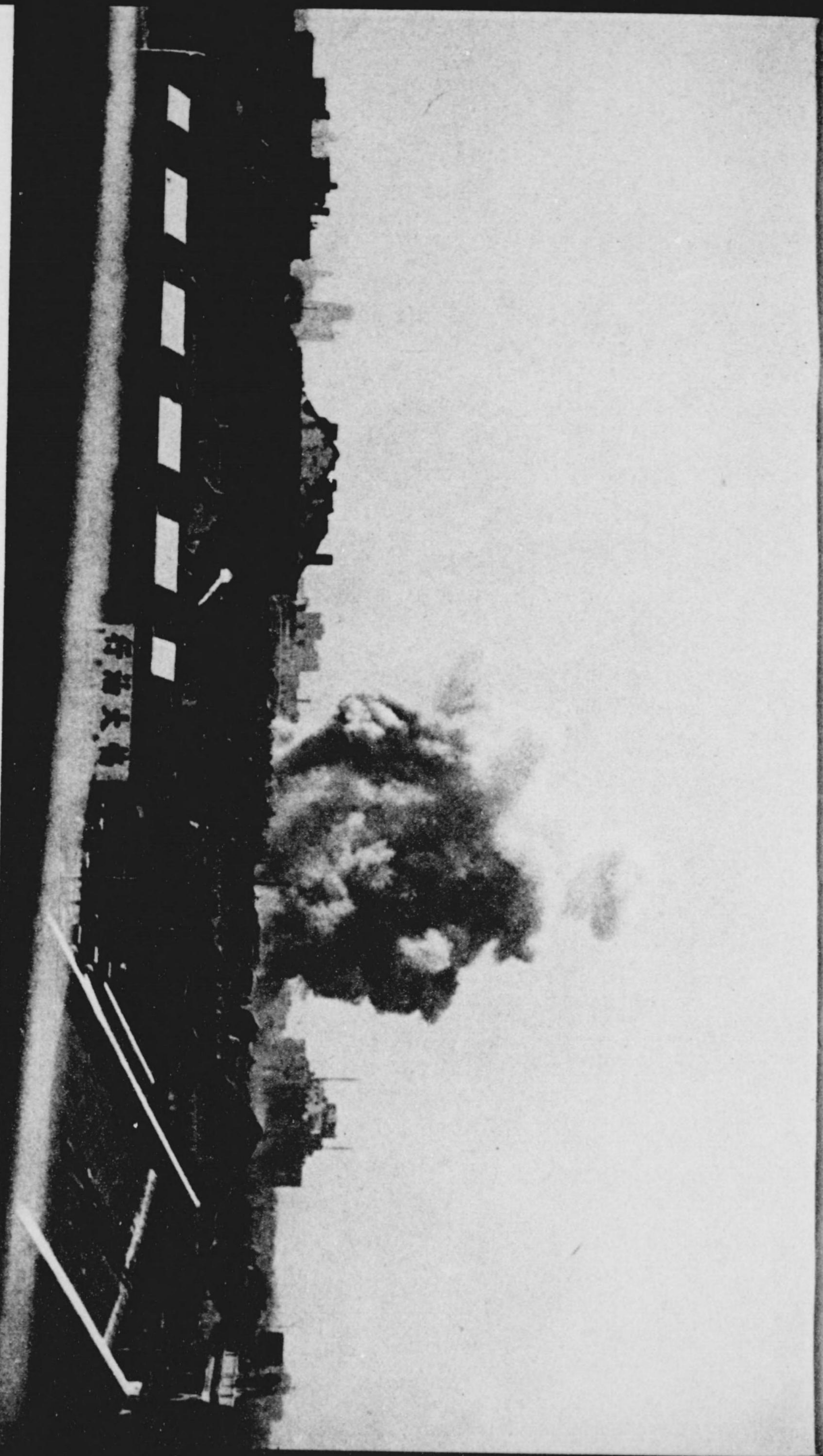
愛國熟占の陸軍隊



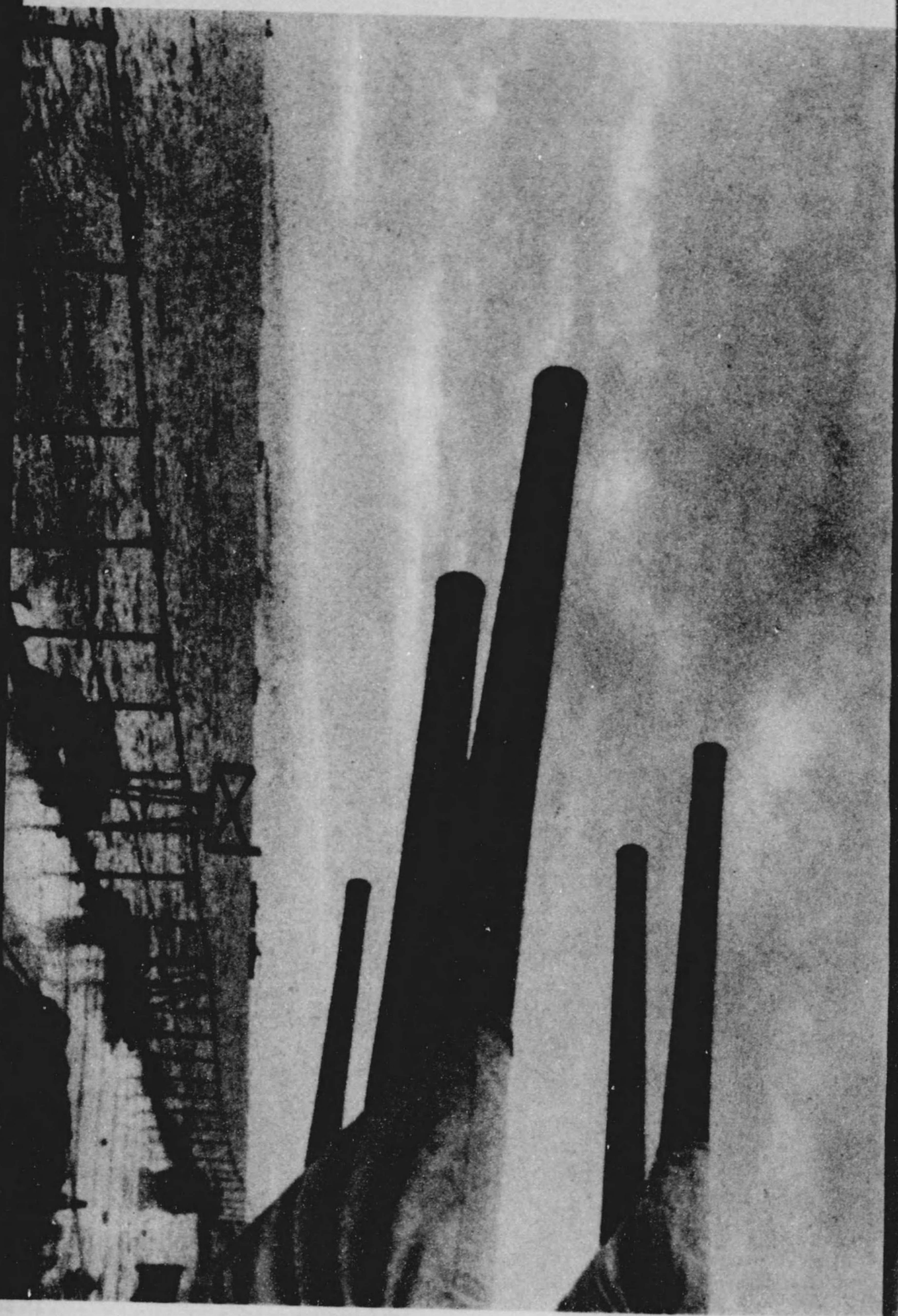
愛國塾の陸戦隊



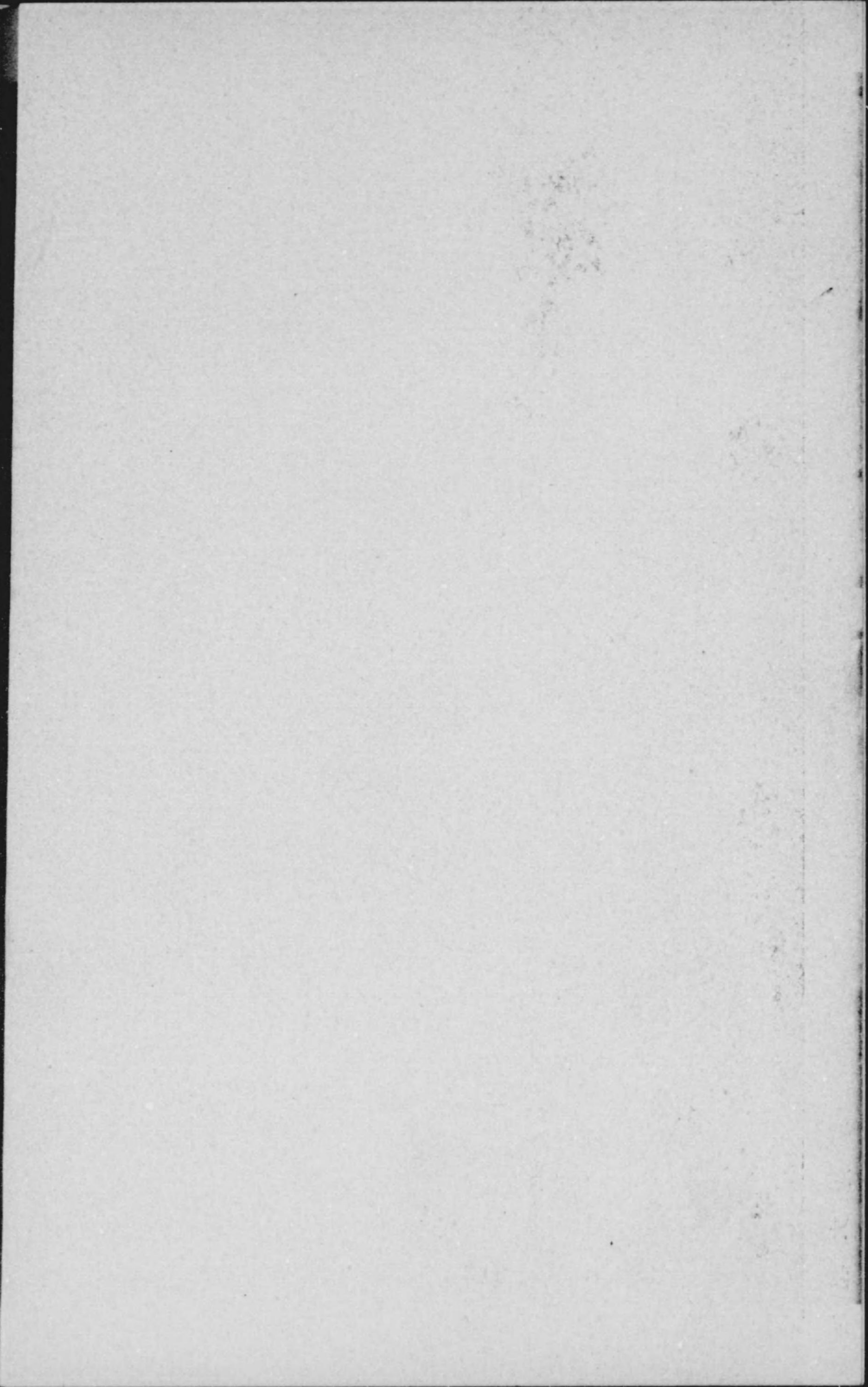
開北大爆炸

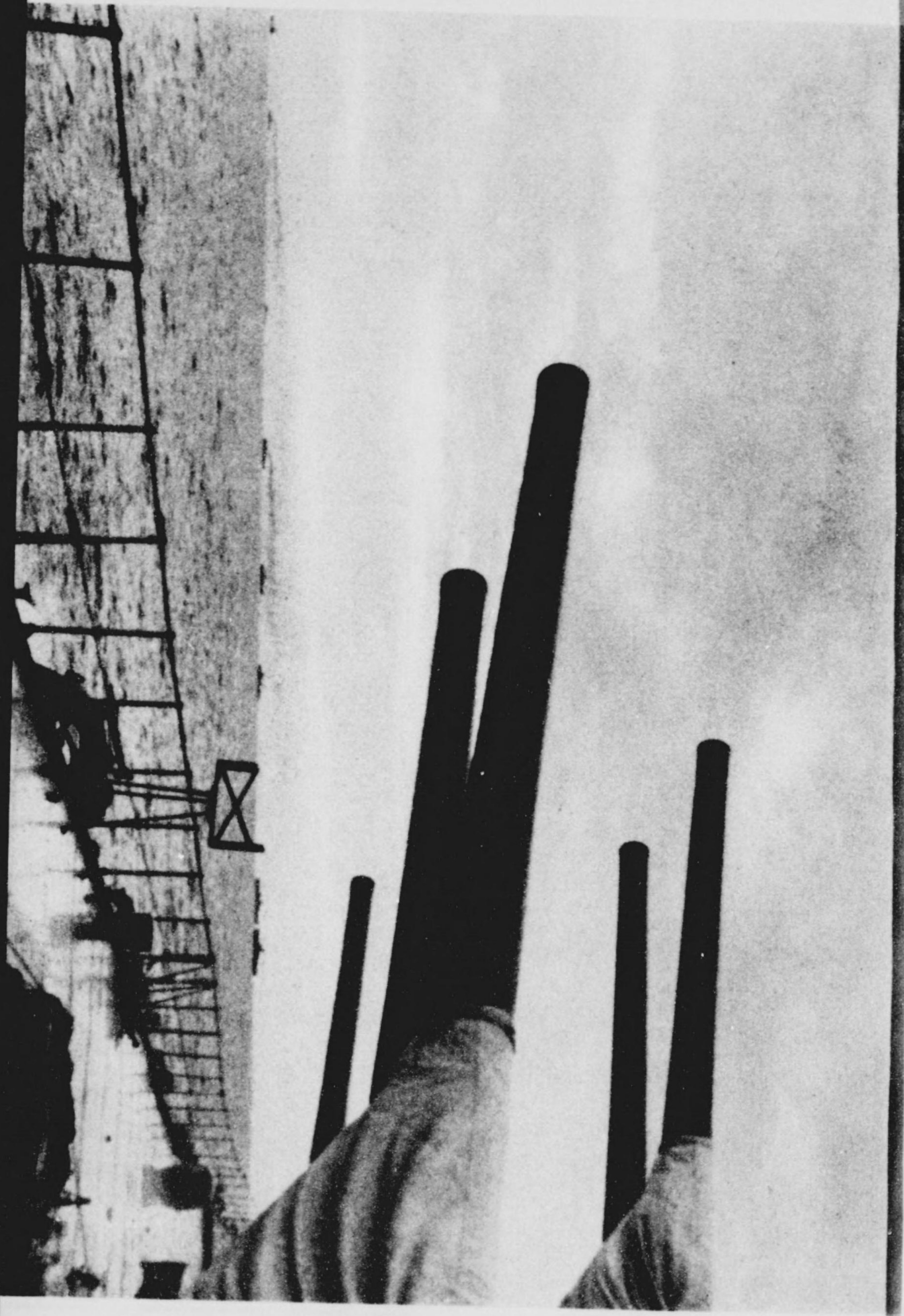


間北大爆撃



杭州灣敵前上陸





杭州灣敵前上陸

715
452

支那事變に於ける帝國海軍の行動

(發端より南京攻略迄)

事變當初の帝國海軍	一
長江方面居留民の引揚	二
上海方面事態惡化	三
支那空軍自爆撃	五
陸軍隊の奮戦	八
陸軍の上陸掩護	九
支那沿岸航行遮斷	一〇
上海戦線の發展	一一



九、南支方面の状況……………	一三
一〇、南京及廣東の大空襲……………	一五
一一、海軍作戦の進展……………	一八
一二、支那軍の不法行爲と宣傳……………	一九
一三、陸戦隊淞滬鐵道線路確保……………	二〇
一四、軍艦旗開北に輝く……………	二三
一五、海軍航空部隊の戦闘……………	二四
一六、航行遮断の効果……………	二六
一七、杭州灣敵前上陸と上海の攻略……………	二九
一八、上海附近の掃敵……………	三一
一九、白茆口敵前上陸……………	三四
二〇、陸軍部隊の進撃……………	三五
二一、勅語下賜と大本營の設置……………	三六

二二、南京政府の遷都……………	四〇
二三、航行遮断の宣言……………	四〇
二四、水路の啓開……………	四一
二五、聯合艦隊の歸還……………	四二
二六、航空部隊の戦果……………	四三
二七、艦船部隊の活躍……………	四四
二八、長江制覇成る……………	四四
二九、南京攻略戦……………	四九
三〇、南京入城……………	五一
三一、英米艦船襲撃事件……………	五一
三二、南京攻略と戦局の前途……………	五一
支那事變海軍作戦經過一覽表……………	五九
附 支那事變關係圖……………	

支那事變に於ける帝國海軍の行動

(發端より南京攻略まで)

今次事變の發端たる蘆溝橋事件發生以來日を閲すること茲に五箇月有半、海軍は陸に海に空に赫々たる戦果を收めて十二月十三日遂に抗日の首都南京を陥れ、次て十七日堂々入城式を行ひ松井派遣軍司令官と長谷川支那方面艦隊司令長官とは國民政府の樓上に於て意義深き握手を交すに至つた。

密に東亞幾千年興亡の歴史を顧みれば誠に感慨無量なるものがあり、正に正義の向ふ處金石亦徹ると云ふ可きである。

此の機會に於て事變開始以來今日迄我海軍が取り來つた行動を顧みて其

の成果を概説しようと思ふ。

二

一、事變當初の帝國海軍

先に北支に事變勃發するや帝國海軍は我が政府の公正なる事件不擴大の方針に基きて善處し、其の優勢なる海軍力を以て黃海支那海の廣漠たる海面を制壓すると共に、北支に於ては陸軍部隊と協力事件の局地解決に努め、一部艦隊兵力を以て陸軍内地部隊の輸送を援護し、猶他の海上及航空兵力に對して待機を令し、特に事件の中南支に波及するを防止する爲に所在警備部隊に對し警備上遺憾なき様一層警戒を嚴ならしむる處があつた。

二、長江方面居留民の引揚

然るに事變の餘波は遂に中支南支にも波及し、邦人の最も多數在留する上海を中心に揚子江上流の各沿岸都市にも急速傳播して遂には在留邦人の生命財産の危険さへ感ずるに立至つたので、八月一日以來漢口より上流の居留民に對し引揚命令が發せられ、次で八月七日には漢口在留民を引揚ぐると共に逐次下流の同胞を收容し、我が軍艦護衛の下に此等二千數百名の邦人は概ね八月九日前後上海迄下江、此の間支那軍飛行機及砲臺の威嚇等相當切迫した狀況もあつたが護衛部隊の嚴重なる警戒の下に無事引揚を終るに至つた。

三、上海方面事態悪化

然るに八月九日夕刻上海、虹橋飛行場東方越界路上に於て我が上海特別

三

陸戦隊員大山大尉及齋藤兵曹は暴戻なる支那軍の爲に不法射撃を受け遂に虐殺さるゝに至つたので、我が海軍は愈々警戒を嚴重にすると共に慎重公正なる態度を以て帝国外交官憲と協力して處置に當り、本格的解決條件は留保して差當り當面の危険を除去する爲支那側に對し保安隊の即時撤退及停戦地區内の軍事施設の撤去を要求した。

然るに支那側は此の要求に對し何等の誠意を見せず、之より先停戦協定を蹂躪して租界附近に陣地構築中の支那軍は益露骨なる挑戦行爲に出て、十二日未明以來續々正規軍を上海に集中し市政府、江灣鎮を始め閘北方面には晝夜兼行で「トーチカ」其の他の堅固なる陣地を構築し、租界周圍に地雷を敷設する等情勢愈々險惡を極むるに至つた。

思へば昭和十年十一月九日中山兵曹射殺事件以來隱忍又隱忍を續けて來

た陸戦隊は今や十數倍の支那軍に包圍せらるゝに至り事態益々憂慮すべきものあり、上海居留民團は十二日夕刻租界内殘留民の租界内引揚を行ひ一方英米佛三國總領事が刻下の局面轉換を希望して日支兩國關係者に停戦を申込み來れるに對しては、我が方は慎重審議中の處、十三日早朝我が陸戦隊歩哨は支那便衣隊より「ダラツチ」路、「スコツト」路、狄思威路等市街各所に於て狙撃せられ午前九時十五分には便衣隊及正規兵の小銃機銃射撃を受け夕刻遂に八字橋方面より猛烈に攻撃せらるゝに至り、遂に我も之に應戦するの已むを得ざるに至つた。

四、支那空軍盲爆撃

我が海軍は東洋に於ける國際的大商港であり大都市である上海を兵戰の

巷から救ひ三百萬無辜の市民の生命財産を安全ならしむる爲最後迄慎重なる態度を執つてゐたのであるが、支那側の誠意遂に認むべきもの無く十三日午後支那空軍秘藏の「マルチン」爆撃機は租界上空の低空示威飛行を行ひ、翌十四日には正規軍の猛襲と相俟つて其の精銳を誇る空軍は午前九時頃より數次に互り我が艦船、陸戦隊及總領事館等を空襲したが、我が海軍の防空砲火は克く其の威力を發揮し、我が出雲其の他の艦載機は勇猛鮮かに敵機の中に突入して我に優る精銳なる敵機を撃墜初陣劈頭に敵機三機を屠つた。

敵の空襲に依り我が損害は皆無であつたが、血迷つた支那飛行機は亂暴なる盲爆により或は英人經營の倉庫、米國「スタンダード」石油會社油槽を始め南京路、佛租界等へ爆彈を投下し無辜の民衆を殺傷すること二千數

百名に上つた。

茲に於てか帝國海軍は敢然立つて徹底的に支那軍を膺懲するに決し、八月十四日午後二時此の決意を中外に聲明すると共に長谷川第三艦隊司令長官も亦艦隊として自衛上必要なる手段を執る旨聲明、某地待機中の海軍航空部隊は折柄支那海上に停滯せる七二〇耗の颱風の中心を突破し杭州及廣德飛行場を襲ひ敵の格納庫及飛行機に先制的打撃を加へて航空戦史上未だ曾て見ざる渡洋爆撃の偉勳を樹て十五日には遂に敵の首都南京及其の空軍根據地南昌を襲ひ敵の心膽を寒からしめた。

爾來晝夜を分たず荒天豪雨を冒し上海附近は勿論支那内地奥深く敵空軍の根據地を衝き、或は爆撃に或は空中戦闘に赫々たる戦果を收め寡軍奮闘の陸戦隊に協力する等誠に目覺しい活躍を續け、敵空軍第一線部隊の大部

を撃滅し上海附近の制空権は間もなく我が手に歸してしまつた。

八

五、陸戦隊の奮戦

陸戦隊は戦闘開始以來敵中央軍の精銳八十八、八十七の兩師及保安隊の猛烈なる攻撃を受け、眞に不眠不休の力戦苦闘を續け士氣旺盛敵の猛襲を撃退して一步も退かず泥と汗に塗れつゝ陣地を堅守した。

敵の攻撃は過ぐる上海事變當時に比し一層猛烈で我が陸戦隊を一氣に撃滅せんと連日數次の執拗なる攻撃を加へ其の空軍の空爆と呼應して其の勢侮る可からず、十五日以後浦東側にも廻り遂に全く我が警備地域を包圍して其の砲彈は屢々租界内市街地に落下し、揚樹浦方面に於ては十七日來數回租界内に侵入して來たが陸戦隊將兵は一死奉公此の時に在りと奮戦力闘

逐次増援の海軍部隊と協力して之を租界外に撃退した、此の間戦線各所に於て發揮せられた美談も少からず、其の壯烈なる奮闘は内外人をして等しく感動せしめた。

六、陸軍の上陸掩護

かくて猛烈なる敵の攻撃を撃退しつゝあつた陸戦隊は連夜の夜襲と相次ぐ便衣隊の侵入に惱まされながらも租界線を確保し、二十三日黎明陸軍部隊が吳淞鎮附近に敵前上陸を敢行するに先ち壯烈白襪隊を以て敵陣地を強襲し多大の犠牲を拂ひつゝも江上艦艇及海軍機と密接なる連絡の下に克く上陸掩護に成功し、同日我が海軍の適切なる掩護の下に揚子江上流羅店鎮方面に上陸せる陸軍部隊の精銳と南北呼應して逐次當面の敵を撃破揚樹浦

九

東方より漸次北方に敵を壓迫した。

一〇

七、支那沿岸航行遮斷

茲に於て我が海軍は速に支那の戦闘力を滅殺して其の反省を促し、事態を速に安定せしめんと企圖し、八月二十五日第三艦隊司令長官の名を以て宣言を發表し揚子江口以南、福州、廈門、汕頭に互る六百五十哩の支那沿岸一帯を支那の公私船舶に對して其の通航を遮斷し、九月五日より更に此の區域を擴張して全支沿岸に及し青島及第三國租借地を除きたる海面に於て支那船舶に限り其の航行を遮斷するに決し、吉田第〇艦隊司令長官及長谷川第三艦隊司令長官の名を以て之を中外に宣明した。

かくて我が海上部隊は儼然其の艦隊の威力を以て黄海、支那海の海上を

制壓すると共に、一方一部を以て全支沿岸の哨戒見張に當ることゝなつたが此の間晝夜を分たず風浪と戦ひつゝ、困難なる任務に當りたる爲忽ち支那船舶の航行は遮斷せられ、其の商船七百隻は自國又は第三國港に封ぜられ其の他の戎克及武装船舶も亦其の後を斷ち海上亦支那艦船の影を見ざるに至り、支那の經濟大動脈は茲に切斷せられて國民政府の財政に一大鐵鎚を加ふることゝはなつた。

又青島及南支方面の居留民引揚は八月中旬より概ね九月上旬に到る迄の間に我が海軍の警備下に行ひ何等の事故なく之を終了した。

八、上海戦線の發展

陸軍部隊は八月二十三日早朝上陸以來、江上、陸上及空中よりする海軍

の緊密なる連繋の下に逐次前面の敵を驅逐して九月初頭、羅店鎮、月浦鎮、李家宅の線に進出、有力なる後續部隊は吳淞及上海東部碼頭に上陸、爾後「クリーク」縦横に走り「トーチカ」等の堅陣を以て堅めたる敵の抵抗を排除して前進を繼續した。

此の時に於ける上海方面の支那軍は約二十萬と云はれ劉河鎮、嘉定、羅家鎮間の地區には既に十一、十四、二十四、五十六、六十、六十五、六十七、百十二、九十八等の各師が集り頑強に抵抗し、一方寶山城、吳淞鎮、殷行鎮の前面には十一、二十四、三十六、六十一、八十八等の各師の外教導總隊及保安總隊が第一線の戦闘に参加し、又殷行鎮、揚樹浦間の軍工路西北方江灣鎮を中心に三十六、五十七の各師が蟠踞して燃ゆる抗日意識の下に必死となつて防戦した。

かくて戦闘は極めて激烈で日露戦争の旅順、世界大戦のベルダン攻防戦にも比すべく見られたが陸軍部隊は戦史に稀なる此の堅壘の前に奮戦力闘歩々敵の第一線陣地を奪取して前進し、一方我が海軍航空部隊の精銳は、八月十五日以來十數回に亘り南京爆撃を敢行して抗日作戦の最高本部たる南京内外の軍事要點を攻撃し國民政府要人や抗日分子等を震駭せしめた。今や激浪風雨と闘ひつつ日夜全支沿岸の航行遮斷に奮闘せる艦隊の精銳あり、不眠不休租界周圍の敵を撃破しつゝある陸戦隊あり、或は又江上に東奔西走して至近の距離に迫る敵を掃蕩しつゝ陸海軍の進撃に協力奮戦中の艦艇あり、海陸空渾然一體の作戦は日々に尊き美談を生み逐次進展した。

九、南支方面の状況

從來最も惡質の排日侮日を繰返して居た南支沿岸の各地に對しては引續き海空方面から攻撃を反復し、九月三日午前我が軍艦〇〇は東沙島（テラタス島）を襲ひ陸戰隊を以て之を占據し、九日午後軍艦〇〇は艦載機を以て汕頭及潮州に爆撃を加へ其の軍事施設停車場等を破壊し、十二日〇〇驅逐隊は、バイヤス灣排牙山砲臺及平海の廣東海軍無電臺を砲撃破壊し、十四日更に軍艦〇〇及〇〇驅逐隊は珠江口近くの虎門要塞に迫り同砲臺及砲臺下にあつた敵巡洋艦二隻を大破擱坐せしめた。此の間我艦艇は數回敵飛行機の空襲を受けたが我には何等の損害が無かつた。

越えて十六日海南海峽安南江砲臺より射撃を受けた我が軍艦は直に之に應戰短時間に之を撃破した。

一〇、南京及廣東の大空襲

暫く南京方面の爆撃を中絶してゐた海軍航空隊は、九月十九日を期し前後二回大集團を以てする世界航空戰史未曾有の大空襲を決行、敵機三十二機を撃墜すると共に猛烈なる防禦砲火を冒して飛行場、格納庫、兵工廠、庫外飛行機、憲兵司令部其の他軍事施設を爆破し、南京の制空權は概ね我に歸し支那軍略の中心たる南京は爾後連續我が空襲下に曝さるる事となつたが、第三艦隊司令長官は被害の外國人並に一般支那人に及ぶ事を顧慮し、十九日第三國に對する通告、二十日支那非戰鬥員に對する警告を發した。かくて我が航空隊は二十日二回二十二日三回南京を空襲し敵空軍及軍事施設に殲滅的打撃を與へ今や江南の空我に双向ふ敵機無きに至つた。

南支に於ても之に呼應して二十一日には折柄の密雲を衝いて數十機を以て二回に亘り廣東大爆撃を決行、廣東上空に於て敵機十數機と壯烈なる空中戦を交へ其の十七機を撃墜し、飛行場、場外飛行機、火薬廠等に一大打撃を與へ翌二十二日午前午後の二回に亘り我が海軍水上機の一隊及航空部隊の大集團は再び廣東を襲ひ飛行場、格納庫及軍事施設に致命的打撃を與へたが、此の空襲に於て敵機は上空に姿を見せず我が方は僅に其の一機を失ひたるのみであつた。

かくて中南支一帯の制空權を獲得した我が海軍航空部隊は、殘敵を一蹴しつゝ、縦横無盡に活躍を續け、敵の軍事施設其の他軍事關係の建造物に對し極めて至難なる狀況の下に攻撃を敢行した。

即ち八月三十日以來津浦線方面に活躍中の一部は九月十九日以降更に北

支方面の偵察及爆撃を敢行して陸軍部隊に協力し渤海、徐州、連金港、濟寧、淮陰、兗州方面の飛行場、停車場、軍用列車、軍需品倉庫等を粉碎した。

更に九月二十三日、二十五日、二十七日、二十八日引續き廣東を空襲又九月二十四日には折柄の悪天候を冒して長驅漢口を襲ひ、敵の戦闘機を撃墜すると共に、其の軍事施設を屠り其の間又一部を以て陸軍の作戦に協力して上海戦線の敵陣地に一大打撃を與ふると共に、南昌、南京、江陰、句容、蕪湖、杭州、廣德、徐州方面に反覆爆撃を加へ、八月十四日以來十月十日の間敵機を撃破すること三二四機に及び飛行場一八、兵器工廠一〇を破壊し、粵漢、浙贛、津浦、京滬各線の要地に大打撃を與へ更に巡洋艦七を始め砲艦八、驅逐艦、小艦艇、測量艦各一、合計一八隻の艦艇を沈没擱坐又は大破せしめ支那海軍の主力は概ね茲に壊滅した。

一、海軍作戰の進展

上海に於ける陸戦隊は江上艦艇及海軍航空部隊の協力の下に、陸軍部隊と呼應してじりじりと敵軍を壓迫し、安田、柴北、竹下各部隊は東揚樹浦方面より軍工路を経て滬江大學の北西に進出頑強なる敵の抵抗を排除して、九月十三日敵が市政府掩護の據點と恃む遠東競馬場を奪取、又陸戦隊本部北部方面に於ては體育會路及愛國女塾、粵東中學等を占據して逐次江灣の堅壘に迫つた。

此の間屢々東部、北部方面に敵の逆襲あり浦東方面よりも江上艦艇、虹口及陸戦隊方面を砲撃し九月二十五日には畏くも第三驅逐隊司令として御奮戦中の 伏見宮博義王殿下御左手に御微傷を負はせ給ふたが、我が海軍

航空隊及江上艦艇は陸戦隊と協力して即時敵を壊滅し閘北方面の敵も漸く敗色濃厚なるものあり、九月中旬以後は上海租界内の狀況も著しく安定し商店等も逐次開業の運びに到つた。

又八月二十六日太倉附近に於て惹起せる「ヒューゲッセン」英國大使負傷事件は九月二十一日に到り解決した。

二、支那軍の不法行爲と宣傳

事變發生以來支那軍は其の武力戦に於ける失敗を補ふに宣傳戦を以てせんとし全世界の宣傳網を擧げて抗日宣傳に没頭し、一方我が病院船朝日丸、亞米利加丸等に對し不法射撃又は爆撃を加へ而も之を我が軍の行爲の如く赤十字關係委員會等に提訴する等暴虐の限を盡し八月二十日には黃浦江上

に於て米國旗艦「オーガスタ」號を砲撃し其の乗員を殺傷、三十日には「プレシデント・フリーヴァー」號を爆撃、船客及船員に多數の負傷者を生じ米國の朝野を憤激せしめた。一方我が國旗を潜用して我を僞瞞したり或は第三國の國旗を亂用したり、又其等の建築物を軍事據點に利用せるのみならず、焼夷彈、「ダムダム」彈の使用、租界内支那人の煽動、攪亂等、赤色の魔手に動く盲動は漸次惡辣を極むるに至り、其の荒唐無稽なる戰況報道宣傳は漸く外人間にも其の虚構なる事が認められ漸次信を國際間に失ふに到つた。

一三、陸戰隊淞滬鐵道線路確保

海軍陸戰隊は九月二十九日以來寶興路、廣東街、虬江路方面より進撃を

開始し到る處激烈なる市街戦を演じつゝ、歩々敵陣地に突入した。

即ち北四川路西北方淞滬鐵道方面に於ては、土師部隊は敵の第一線を奪取して之を西方に佐野部隊は三義里方面に向つて敵を猛攻一軒々々壁を破り屋根を越え十月五日遂に三義里を陥し猛烈なる海軍航空隊の爆撃と呼應して遂に淞滬鐵道沿線を確保した。

其の後敵は閘北方面から新手を加へて屢々猛烈なる逆襲を反覆、特に十月八日、十二、十三、十四日頃は其の勢甚だ猛烈に敵彈屢々租界内市街地にも落下したが壯烈肉弾を投じて奮戦する陸戰隊の勇士は屢々執拗なる敵の逆襲を撃退しつゝ、十月二十日北は江灣南方商學院、五、三十小學校等の敵陣地を粉碎して東部より迫る我が陸戰隊東部支隊と呼應、江灣鎮の敵を壓迫し西は漸次閘北の敵第二線陣地に迫り敵重砲陣地及商務印書館、鐵道

管理局附近の敵陣地に多大の損害を與へつゝ、今や斷末魔の敵を逐次西方に撃退した。

三二

此の間十月十四日以来數回珍らしくも敵飛行機の空襲あり殊に十七日夜は其の焼夷彈の爲、工部局避病院に火災を生ずるに到つたが敵機は忽ち撃退され我が方の損害も極めて輕微で市内には何等の動搖なくして終つた。

かくて二十日頃の上海は漸次復興の途に向ひ連絡線毎に歸滬する邦人も次第に増加し晝間吳淞路の商店は店を開くに到つた。

一四、軍艦旗開北に輝く

上海に於ける戦闘開始以來七十餘日戦史に稀なる慘烈なる市街戦を繼續中の我が陸戦隊は、陸軍部隊の大場鎮攻略と相呼應して十月二十六日朝來

開北の敵に猛烈なる攻撃を加へ二十七日黎明前、戦機を捕捉折柄の月明を利用して全線壯烈なる進撃を開始した。

先づ右翼部隊は必死となつて抵抗する敵を撃破してポケット地帯一圓の敵の退路を遮斷すべく急進、午前七時前後早くも開北西端に進出し爾餘部隊と共に袋地の敵を北方及北東方より蘇州河租界線に向つて壓迫し北停車場の東隣に久しく灰色の残骸を横へてゐた鐵道管理局樓上に軍艦旗を輝し、午後六時頃迄に最後の據點たる四行倉庫に追込められたる殘敵數百名を殘して開北一帯を完全に掃蕩し、北方大場鎮方面から南下した陸軍部隊と租界西境に於て握手するに到り一部隊は西方に進出して夕刻眞茹鎮を占據した。

此の掃蕩戦に於て敵の遺棄した死體約九〇〇、捕虜約三〇〇、鹵獲兵器

二三

は莫大の數に上つたが我が損害は極めて僅少で中隊長以下二十七名の重傷を出したのみであつた。

茲に於て大川内陸戰隊司令官は閩北民衆に對して我が陸戰隊作戰の趣旨を布告すると共に爾來閩北の整理に當り三十一日には遂に四行倉庫の殘敵を掃蕩遂に之を占據した。

一五、海軍航空部隊の戰鬪

十月上旬以降海軍航空隊は上海戰線に於ては當面の閩北、浦東、大場鎮、江灣鎮、嘉定、南翔等敵陣地の全線に猛烈なる爆撃を加へ、無錫、蘇州、吳江、崑山、松江、嘉興方面の軍事輸送施設を爆破して敵の後方戰隊に一大打撃を與へ、一方北支方面に於ては引續き津浦、隴海沿線の要地、南支

方面に於ては粵漢線及韶關の飛行場及兵器工廠等を屠り、更に南京、杭州、廣德、安慶、南昌、合肥方面の敵飛行場を空襲した。

此の間十八日月明を浴び林立する高射砲の砲撃を物ともせず決行した南京空襲と十月八日及二十四日決行せる漢口大爆撃とは、共に敵空軍に一大打撃を與へた。

八日午後七時頃、漢口空襲に於て敵の地上機三十數機を襲撃して大型機少くとも九機を確實に爆破、小型機多數に大損害を與へ、空中戰に於て敵の二機を撃墜し、二十四日午前五時、漢口第三次の大爆撃に於ては、敵戰鬥機三機を撃墜して格納庫及地上にあつた敵の數機を撃破した。

かくて陸上部隊の進撃に伴ひ二十七日早朝より夕刻に互つては延機數、百數千機を以て浮足立つた敵を全線に互り猛烈に攻撃し、潰走する敵に連續銃爆撃を加へ、他の數十機を以て後方の軍事據點及輸送要衝を爆破、敵

軍救援の企を崩壊せしめた。

陸上部隊は破竹の勢を以て敗敵を追撃し三十日略々蘇州河の北岸に達し一部は南翔方面の敵に迫り、一部は翌三十一日以來蘇州河を越えて上海西境に敵を急迫、南京政府戦闘力の源泉たる上海市と南京との連絡を斷絶した。

此の間の我が海軍航空隊の陸軍作戦への協力は誠に目覺しきものあり日々悪天候を冒して密雲の中を飛び、全力を舉げて敗敵の殲滅に當つた。

一六、航行遮斷の効果

全市沿岸の支那船舶航行遮斷は晝夜を分たず風浪と戦ひ、嚴密なる監視を續行してゐる我が海上部隊により確實に行はれた。

之が爲に支那の海上に依る通路は全く遮閉されて、事變前好調に向ひつつありたる對外貿易は一舉に激減し、支那船舶は全く海上から姿を消すに到つた。

又外國貿易の通路は青島と九龍方面の外無いので、貿易は殆ど全滅に瀕し、九月中の全支三十五港の外國貿易船舶出入數は

入 港	一、九九六隻	九一〇、九二八噸
出 港	二、一一二隻	九一五、五三〇噸

となり出入港總噸數は八月に比し三六%、六月に比し五五%の激減を示し、支那船舶にして停船を餘儀なくされて居る數は二四〇隻三十五萬噸に達してゐる。

外國貿易の激減は、延いて戦用材料は固より、衣服糧食等國民生活必需

品及工業材料の缺乏により物價は著しく騰貴し、輸出の杜絶は農産、畜産物、礦物等の吐口を失ひ、農民の生活を脅威し、海鹽の輸送停止は多數民衆をして愈々窮乏のドン底に迫込んだ。

人類の生活に鹽の必要なる事は云ふ迄も無いが、支那の鹽は

長芦鹽 (渤海灣西岸より産出、品質最良)

山東鹽 (黄海下流より青島附近迄に出る鹽)

淮海鹽 (海州より揚子江に到る海岸に産出)

杭州灣北岸及南岸餘姚附近の鹽

福建鹽 (厦門福州間の鹽)

廣東鹽 (廣東省電白及兆海附近に産す)

内部より産する鹽

(四川西南の山鹽、蒙古の中部に出る鹽、山西省南部鹽池附近の鹽) 等であるが、此等は我が航行遮断及鐵道の爆破等で甚大なる影響を受け、内地方面

の鹽の缺乏は想像外とされてゐる。

關稅は國民政府國庫收入の重要部分を占めるものであるが、八月は七月に比し一八・五%に減じ、九月は更に六・三%に減じた。

總括的國庫收入は十一月は七月に比し三分の一となつたと云はれ、役員の減俸や俸給不渡の一方物價は著しく騰貴し、香港に於てすら白米肉類魚類共に八割—一〇割暴騰し全支を舉げて政府怨嗟の聲漸く喧しくなつた。

一七、杭州灣敵前上陸と上海の攻略

陣中に明治節を迎へた第一線將兵は冷酒を酌み交しつゝ遙か故國の空を拜して聖壽を壽ぎ奉り、各部隊は又皇禮砲に代ふるに實彈を以て敵軍を潰滅、戰線は異狀の緊張を示し、畏き邊に於かせられては親しく侍從武官を御差遣遊ばされて艦隊司令長官以下、隊員一同に有難き聖旨、令旨、並に

御下賜品を賜り、將兵一同此の無上の光榮に恐懼感激、一死奉公の念愈々篤く力戰奮闘を續けた。

陸戦隊、砲隊は江上艦艇と協力して浦東側の敵に痛撃を加へ航空部隊は又列國人監視の中に浦東、南市の敵に美事なる爆撃を加へ、更に不良の天候を冒しつゝ、上海戦線より青浦、崑山、蘇州方面に退却する敵の密集部隊に徹底的打撃を與へた。

これより先杭州灣北岸に陸軍部隊揚陸の爲海上部隊の一部は第〇艦隊司令長官指揮の下に極めて隱密裡に陸軍輸送船の大集團を護衛しつゝあつたが、十一月五日黎明を期し杭州灣に進入し、陸軍部隊の上陸を海空兩面から全力を擧げて掩護し、大成功裡に目的を達成混亂中の敵の背後に迫り全く上海の死命を制するに到つた。

杭州灣は高潮を以て知らるゝ、錢塘江の下流に位し、赤土堆積、海底暗礁多く、干満の差は普通の時でも四米に及び、潮流流速六節、大潮時には有名なる暴漲湍の渦巻くところで、船着場としては最も不便な所であるが、此の時海上稀に見る濃霧を冒し所定錨地に到着するや、輸送船より陸軍の上陸用艇陸岸目掛けて驚進し、轟々たる艦砲射撃の掩護の下に淺瀬を渡渉して無事上陸を完了、「日軍百萬上陸杭州北岸」の「アドバルーン」は敗敵の心臟に冷水を注いで愈々浮足立たせるに到つた。

一八、上海附近の掃敵

敵は我が上陸部隊の側背包圍作戰に痛く狼狽し、浦東、蘇州河南岸一帯から撤退を餘儀なくせられたが、一部は尙南市へ據つて最後の足掻きを續

け列國干渉の端緒を得んと焦つた。

之が殲滅の爲陸戦隊は十一日黎明浦東側に上陸を開始し、陸軍部隊と協力して残留せる敵敗殘兵竝に便衣隊を掃蕩し、午前十時頃早くも南市對岸日蓮涇鎮に到達、陸軍と協力して南市の徹底的掃蕩に任じ、緻密精確なる攻撃は著々成功し、十二、十三日の交全く南市を掃蕩して列國人の前に我が皇軍の眞價を堂々表示した。

江上に活躍せる艦船部隊は此の間陸戦隊及我が海軍航空隊と密接なる連絡を保ちつゝ、其の作戦に絶大なる與力を與へ、其の黄浦江封鎖船啓開作業隊は十二日夕刻以來綿密なる計畫と勇敢なる行動の下に、事變發生と共に日清汽船所有船其の他の戎克等を沈めて遮斷せられた黄浦江の水路を開き、敵の機雷其の他の障害物を除去した。

一方又松江、金山方面に進出せる我が陸軍部隊に彈藥糧食等を急遽補給する爲、軍艦〇隻は十三日正午相前後して錨地を出て、補給船〇隻を嚮導して帝國海軍創設以來最初の黄浦江遡江に成功し、先發の僚艦二隻は同日夕刻閔行鎮上流に於て敵砲艦數隻を捕獲した。

上海を覆つた抗日の妖雲は茲に全く取り除かれ、蘇州河を渡つて上海西側地區を掃蕩した陸軍部隊は反轉北上京滬鐵道に沿つて敵を崑山方面に急追、杭州灣上陸部隊は逐次北進及西進を續け一方大場鎮、瀏河鎮方面の戦況も頓に發展して大舉蘇州に迫つた。

此の間海軍航空部隊の活躍には一層拍車が掛けられ、引續き南支、北支各鐵道沿線を爆撃し、其の軍事輸送を阻礙する外、大部隊を以て上海方面の陸軍作戦に協力し、一部は十日以來又々南京方面の空爆を反覆、敗敵の

據點を灰燼に歸せしめた。

一九、白茆口敵前上陸

十一月十三日未明我が海軍〇〇戦隊は陸軍の大兵團を護衛して、揚子江上流遠く白茆口附近に敵前上陸を決行せしめた。本上陸作戦も杭州灣上陸と同様敵の虚を衝き奇襲作戦に依つて大成功を収めたのであるが、上陸地點附近一帯には浅瀬や中洲多く水路嚮導には至大の苦心と困難を伴つた。又江岸一帯の敵は頑強に抵抗して上陸を阻止せんと努めたが、敵陣を猛撃する掩護射撃、江中を猛進する上陸部隊、之に協力する航空部隊の海陸空軍一體の勇戦努力に依つて所期の目的を達成したのである。かくして江岸の敵陣を突破した陸軍部隊は一齊進撃に移つて南下し、南東より前進せる

部隊と相呼應して敵を崑山方面に包圍し、破竹の勢を以て同方面一帯を占據した。



二〇、陸軍部隊の進撃

大上海已に陥り杭州灣敵前上陸亦敵の意表に出づるや戦局は首都南京の攻略を目指し陣地戦から大追撃戦に移つた。

皇軍向ふ處一瀉千里の勢で太湖の南北から湖東の平野を席捲、南翔、嘉定、太倉、崑山を屠つて十一月十三日未明海陸協力して揚子江岸白茆口より強力なる新兵團の上陸を敢行し、常熟、蘇州方面に潰走する敵の退路を衝き敵を湖東に包圍して之に殲滅的大打撃を與へた。蘇州、常熟、無錫相次いで落ち、日章旗は長江沿岸を壓して西進した。

太湖南側に於ても嘉興、南潯、湖州、長興等を攻略して湖沼地帯を突破し、山岳地帯に入り山間を縫つて分進を開始した。

二、勅語下賜と大本營の設置

十一月二十日午後二時三十分軍令部總長宮殿下を召させられ聯合艦隊司令長官及支那方面艦隊司令長官に對し各々左の勅語を下賜あらせられた。

聯合艦隊司令長官ニ賜ハリタル勅語

聯合艦隊ハ久シキニ互リテ艱難ヲ凌キ制海ノ實權ヲ掌握シテ敵ノ交通ヲ遮斷シ克ク陸軍ト策應シテ敵軍ヲ擊碎シ皇威ヲ中外ニ宣揚セリ朕深ク其ノ忠烈ヲ嘉ミス爾等益々奮勵ヲ加ヘ以テ朕ノ信倚ニ副ハムコトヲ

期セヨ

支那方面艦隊司令長官ニ賜ハリタル勅語

支那方面艦隊ハ堅忍力闘事變發生ノ際ニ善處シ克ク陸軍ト協力シテ上海方面ニ敵軍ヲ擊破シ或ハ長驅敵ノ要地ヲ衝キテ其ノ航空機ヲ殲滅シ其ノ諸陣營ヲ毀碎シ或ハ支那沿海ヲ掣壓シテ敵ノ交通ヲ遮斷シ以テ皇軍ノ威武ヲ中外ニ宣揚セリ朕深ク將兵ノ忠烈ヲ嘉ミス願ミテ其ノ死傷者ニ及ヘハ寔ニ忉忉ニ勝ヘス惟フニ前途尙遼遠ナリ爾等益々奮勵ヲ加ヘ以テ戰果ヲ完クセンコトヲ期セヨ

優渥なる勅語を拜したる聯合艦隊司令長官永野大將及支那方面艦隊司令長官長谷川中將は夫々左の通り奉答申上げた。

永野聯合艦隊司令長官奉答

優渥ナル 勅語ヲ賜ハリ洵ニ恐懼感激ノ至リニ堪ヘズ 臣修身部下將
兵ト共ニ益々奮勵努力誓ツテ 聖旨ニ副ヒ奉ランコトヲ期ス

長谷川支那方面司令長官奉答

支那方面艦隊ノ作戰ニ對シ特ニ優渥ナル 勅語ヲ賜リ洵ニ恐懼感激ニ
堪ヘズ今日ノ成果ヲ得タルハ一ニ
天皇陛下ノ御稜威ト神靈ノ加護ニ依ルモノニシテ人爲ノ克クスルトコ
ロニ非ズ 臣清麾下將兵ト共ニ益々奮勵努力誓ツテ 聖旨ニ副ヒ奉ラ
ンコトヲ期ス

尙長谷川中將は謹しみて次の如く語つた。

今回開戦以來當艦隊作戰ニ對シ優渥ナル 勅語ヲ賜リタルコトハ洵ニ
恐懼感激ノ至リニ堪ヘナイ次第デアリマス。今日マデノコノ順調ナル戰
果ヲ收メツツアルノハ一ニ 上陛下ノ御威光ト神明ノ加護ニヨルモノデ
アリマシテ、到底人爲ノヨクスル所デハアリマセン。シカルニ特ニ 臣
等將兵ノ功績ヲ嘉セラレ、且又死傷者ニ對スル深キ御軫念ヲ辱クシタコ
トハ、唯々御仁德ノ有難キニ感泣スルノミデアリマス。今ヤ敵軍ヲ蘇州
以西ニ驅逐シ上海附近ハヤ、平靜ニ復シツツアルノハ御同慶ノ至リデア
リマスガ、戰ノ前途ハナホ遠遠デアリマス。我々ハ大御心ヲ體シ益々勇
奮健闘以テ皇恩ノ萬分ノ一ニ報イ奉ルノ覺悟ヲナホ一層堅クスル次第デ
アリマス。

二三、南京政府の遷都

上海附近一帯を制壓した我が軍は、更に攻撃の手を緩めず、其の戦果を西方及南方に拡大し、中原目指して大進撃を續けた。南京政府は二十日遂に重慶に遷都の止むなき窮狀に陥つて尙抗戦の迷夢より醒めず、長期抵抗を宣言しひたすら容共抗日の政策に狂奔し飽くまで外力の支援に縋つて自滅の途を急いだのである。

二三、航行遮斷の宣言

全支沿岸航行遮斷は、北支に於ては〇〇艦隊司令長官の指揮の下に、南支に於ては第三艦隊司令長官の指揮下にあつたが、二十日支那方面艦隊の

設置せらるゝに當り同艦隊司令長官の單一指揮下に置かるゝことゝなり、同長官は同日其の旨中外に宣言した。

此の間揚子江上にあつて陸上部隊と協力中の〇〇艦隊、海軍陸戦隊は、二十日福山に上陸を決行、吳福（蘇州福山間）陣地の最北端福山を占領した。

二四、水路の啓開

黄浦江上の艦艇は機雷を清掃すると共に水路の調査を重ね、沈船の除去等により水路の擴大を圖り航路標識を設置して航行の便益を圖つた。

此の間陸軍の作戦進展に伴ひ上海、蘇州間水路確保の必要を認め、十一月二十三日午前七時二十分、第三艦隊旗艦「出雲」では古賀部隊長以下十四名の閉鎖啓開作業隊を派遣、折柄の干潮時を利用して蘇州河第一の河橋

「ガーデンブリッジ」を通過、曲折常なき水路を遡り、巧に支那避難民を満載した民船を避け、黃渡鎮に於ては陸軍工兵隊と協力して墜落せる巨大なる石橋を除き、沈舟淺瀬等の航行の障害物には全部標識を立てつゝ、午後四時過崑山に入泊した。

翌二十四日午前八時崑山發、殆ど直線の水路を遡江、江南の風色を飾る幾多の三角形石橋を潛り、無事八十哩餘を突破して遂に水都蘇州に到着水路啓開に成功した。

之に依つて彈藥糧食の補給を圓滑にし、輜重隊を充分に活躍せしむることとなり、第一線將士の活躍に支障無からしむるに到つたのである。

二五、聯合艦隊の歸還

支那事變勃發以來永野大將麾下の聯合艦隊は對支作戰に従事中の處、上海方面に於ける陸上作戰の一大進展を期とし其の所屬艦船は逐次一旦軍港に歸投し、所要の整備補給及人員の補充交代等諸般の準備を急ぎ更に其の陣容を充實一新することとなつた。

先般新に編成せられた支那方面艦隊は依然當面の作戰を續行中である。

將士一同曩に優渥なる勅語を拜し恐懼感激し愈々今後の情勢に對應して出師の目的貫徹に邁進し以て聖旨に副ひ奉らんことを期してゐる。

二六、航空部隊の戦果

十一月中旬上海方面は天候不良にして飛行には適しなかつたが、海軍航空隊は降雨密雲を衝いて陸軍作戰に協力敵敗殘兵を屠り、又北支に於ては

二十一日、長驅河南省周家口に飛び、飛行場を空襲、敵の大型並に小型機十數機及格納庫を爆破、二十二日再び同地空襲を反覆して地上待機中の十數機と、遂へ撃たんとした戦闘機數機を撃滅、同方面の敵空中勢力を一掃した。

下旬天候恢復と共に全支一帯の敵重要地點に向つて一大雄飛を續け、中支方面にありては陸軍の南京攻略戦に協力、南京、長沙、廣德、江陰、無錫、常州、丹陽方面の敗敵に殲滅的打撃を與へ、北支奥地に於ては周家口、洛陽、鞏縣（以上河南省）西安（陝西省）等、各地の飛行場又は兵工廠等に對して長驅勇敢なる空襲を實施、奥地蟄伏の敵空軍に一大打撃を與へた。

特に十二月四日午後一時には蘇聯製機の集中せる甘肅省蘭州飛行場の急

襲を決行、兵舎及大型四發動機装置の四機及小型機十機を粉碎、小型機數機を損傷せしめた外、上昇反抗せるE一六型二機を撃退し全機凱歌を擧げて歸投敵の心膽を寒からしめた。

かくて陸軍部隊が漸次南京を包圍潮の如き進撃を續くるや、南京及附近重要地點に攻撃を集中、十二月二日の南京空襲に於ては第一回空襲以來の壯烈なる空中戦を演じ、我に數倍せる敵蘇聯製戦闘機約三十機、重爆六機の挑戦を奮然一蹴、忽ち戦闘機十機、重爆三機を撃墜、其の間大校場飛行場を爆撃して全機凱歌を奏して悠々歸還した。

北支及南支に於ても漸く身に迫る寒氣を衝いて其の鳳翼を伸べ全支今や我海軍機の爆音に怯ゆるに至り、事變發生以來十二月九日迄に撃破せる飛行機數は實に四八六機の多數に上つた。

事變發生以來我が海軍の撃破せる支那飛行機數

	確實なるもの	稍確實を缺くもの	計
撃	二一六	一一	二二七
地上爆破	二三八	一一	二五九
計	四五四	三二	四八六

猶事變發生以來の我が海軍機の損害は六十一機であつた。

二七、艦船部隊の活躍

支那沿岸航行遮断部隊は、其の後漸く迫り来る寒氣と北東季節風の中に依然黙々として狂瀾怒濤と戦ひつゝ、嚴重なる監視を續け、今や千數百裡に互る全支那海には支那船舶及大型戎克さへも姿を没し單に小型漁船を發見

するのみとなつた。

唯この裏には海上生活者にして始めて知らるゝ幾多の勞苦を凌ぎ、二十度乃至四十度の動搖の中に、小型艦船の如きは時には食事すらも排して目に見えざる敵に對抗奮闘しつゝ、ある將士の事を忘れてはならないのである。

十一月三十日上海方面に於ては外國旗掲揚の支那船艇六隻を抑留し、又揚子江上より陸軍の作戰に協力しつゝ、あつた我が〇〇艦隊の軍艦〇〇は、十二月四日海岸よりする猛烈なる敵火を冒して、先に我が海軍機の爆撃により江陰對岸八圩港附近に坐洲せる支那唯一の精銳「寧海」(排水量二、四〇〇噸速力二三節、昭和七年我が橋樑造船所建造)を捕獲し、其の檣頭高く軍艦旗を翻した。

二八、長江制覇成る

此の間に待望の長江制覇は黙々たる江上艦艇により完成さるゝに至つた。豫て揚子江方面に於て策動中の我が〇〇艦隊は棧橋其の他航路上各種の障害物を除去しつゝ、或は西岸の敵を掃蕩し、或は兩岸の要點を偵察して遡江中の處、遂に十二月十三日未明、南京下流十五湮南京最後の守備線たる烏龍山砲臺と對岸老鹽圩砲臺を砲撃午後二時を期して威風堂々敵前遡江を決行、午後五時旗艦〇〇を中心に堂々〇〇隻舳艫相銜んで抗日の首都南京の表玄關下關碼頭に進入した。

かくて陸軍の急迫に揚子江を越え北岸に遁走を企てた敗殘兵に猛射を浴せて殲滅する一方北岸の陣地による敵を制壓しつゝ遂に四時間にして南京

の咽喉を制扼した。かくて江陰の要塞を突破してから不眠不休の十日間機雷、閉塞船、防塞等各種の障碍を排除しつゝ、凡ゆる困難を克服、長江制覇の重大任務を達成し事變以來僅かに四箇月にして下關沖に光輝ある軍艦旗を翻して完全に敵の退路を遮斷し耀々南京攻略に不滅の戦果を収めたのである。

二九、南京攻略戦

これより先、長江南岸に沿ふて進撃中なりし我が陸軍は常州、金壇、丹陽を相次いで陥れ、湖南方面及溧陽、廣徳を占據、南京包圍の戦略的基礎體形を整へ轡を並べて分進する各部隊は鎮江、句容、溧水、水陽鎮、宣城、當塗、蕪湖の各地を攻略した。

かくて海軍航空隊の密接なる協力の下に十二月八日、棲霞山（南京東北方十八軒）湯山（南京東方二十軒）青龍山（南京東方八軒）方山（南京東南十五軒）牛首山（南京南方十軒）に互る敵の南京本防禦線を占據し茲に南京包圍體形を完成して敵の死命を掌中に收めるに至つた。松井軍司令官は、武士の情を以て九日敵將に降伏開城を勸告、十日正午を期し回答を求めた。併し回答の期日は空しく過ぎて最後の鐵槌的砲火は南京城壁を搖がし、我が軍は光華門に輝く一番乗りを敢行して破竹の如く中山門、中華門、水西門を突入した。又海軍溯江部隊主力は遂に下關沖に軍艦旗を翻し陸海呼應して、十三日夕完全に城内の掃蕩を完了した。かくて皇軍の威風、長江一帯を壓し、日章旗は夕陽に映えて翩翻とはためき、仰ぐ將兵の眼には感激の涙が光つた。

願れば上海方面に於ける彼我衝突以來四閱月、此の間我が海軍は特別陸戦隊に依る上海の防守、艦艇飛行機による陸戦協力、陸軍の輸送並に輸送船護衛、上海の掩護、支那船舶の交通遮斷等の作戰に従事し、陸軍諸部隊の善戦力闘と相俟つて茲に今日の戦果を收むるに至つたのである。就中、抗日作戰の中樞であつた首都南京に對する我が海軍航空隊の空襲は回を重ねること五十餘回に及び、參加飛行機延數九百餘機、投下爆彈百六十餘噸にして、又南京を除き中支方面陸上作戰に協力せる延機數五千三百三十餘機、爆彈九百餘噸にして、全支に互り撃滅したる敵飛行機數四百餘機に達した。かくて我が軍は今や全支に互り完全なる制空權を確保し敵空軍は遠く南昌、漢口等の奥地に蠢動するに過ぎざるに至つた。畏くも 天皇陛下に於かせられては、十二月十四日午前十一時三十分、

軍令部總長宮殿下を召させられ左の御言葉を賜つた。

中支那方面ノ陸海軍諸部隊カ上海附近ノ作戰ニ引續キ勇猛果敢ナル追撃ヲ行ヒ速ニ首都南京ヲ陥レタルコトハ深ク満足ニ思フ此旨將兵ニ申傳ヘヨ

三〇、南京入城

待望久しき南京攻略遂に成つて、十七日愈々雄渾壯大なる南京入城式が陸海軍部隊に依つて舉行された。此の日天氣晴朗、空には一點の雲もなく、恰も今日の盛儀を祝福するかの如き絶好の日本晴であつた。午後一時過、中山門より入城の陸軍部隊と相呼應して、長谷川支那方面艦隊司令長官、大川内上海海軍特別陸戰隊司令官、近藤第〇〇戰隊司令官は各々幕僚

を随へて南京の表玄關挹江門より威風堂々入城し、中山路に堵列する海軍部隊の閱兵を行ひ、式場たる國民政府に向つたのであつた。此の時海軍航空部隊も陸軍航空部隊と共に陸上部隊の入城と呼應して空より編隊入城し、南京上空に於て勇壯なる分列式を行つた。

午後二時過、參列全軍の國歌「君が代」合唱裡に我が大日章旗は國民政府正門上に高く掲揚され、次いで皇居遙拜を行ひ、松井軍司令官の發聲で聖壽萬歲を三唱、茲に歴史的盛儀を目出度終了した。

三一、英米艦船爆撃事件

十二月九日頃以來南京城を包圍攻撃中の我陸軍部隊に協力中であつた我が海軍航空隊は十二日正午に至り「大小汽船十隻及戎克多數が敵敗殘兵を

搭載して南京上流十二湮乃至二十五湮附近を遡江中」との情報に接し直に航空兵力の一部を以て之を攻撃に向はしめた。右の飛行機中數機は午後二時三十分頃南京上流約十五湮に於て戎克數隻を横附したる大型商船二隻小型汽艇數隻及砲艦らしきもの三隻を發見し、右大型商船に對し爆撃し砲艇らしきもの三隻より射撃を受けた。

然るに同夜英國海軍側より我が支那方面艦隊に對する照會に依り我が海軍飛行機の攻撃した前記艦艇群中に英國軍艦「クリケット」「スカラブ」及英國商船一隻あつたこと判明し、我が支那方面艦隊司令長官は直に艦隊參謀長をして在上海、英國先任指揮官たる「フアルマス」艦長を訪問陳謝せしめた。又別動した飛行機數機は南京上流二十六湮附近に汽船四隻を發見、午後二時二十五分頃之に爆撃を加へ一隻を撃沈他の三隻に火災を生ぜ

しめ續いて附近棧橋に横附せんとした一隻を撃沈した。飛行搭乗員は本攻撃前後を通じ汽船には國旗を認めず又支那兵らしきもの多數乗船せるを認め且爆撃の際船體白色塗の一隻より射撃を受けた旨報告してゐる。

然るに翌十三日朝に至り米國東洋艦隊側より、十二日午後二時三十五分以來砲艦「パネー」との無線電信連絡絶えたる旨照會に接し我が支那方面艦隊司令長官は直に調査を行ひ茲に初めて十二日我の撃沈したる船は前後の様より察し米國軍艦「パネー」及米國商船なること判明した。

爰に於て我が支那方面艦隊司令長官は直に我が砲艦及水雷艇各一隻を急派し又飛行機を以て軍醫官及醫療器を送る等遭難船舶乗員の救助に努むると共に自ら米國亞細亞艦隊司令長官を訪問し陳謝した。

右米國及英國の軍艦及商船に對する我が海軍航空隊飛行機の爆撃は勿論

我が方の故意に出でたるものには非ず全く過誤に基く不幸なる事件にして之に關する善後處置に關しては各方面に於て萬遺憾なきを期するところがあつた。

三二、南京攻略と戦局の前途

今次事變は帝國の事件不擴大の方針に拘らず、支那側の挑戦により遂に上海方面に迄擴大したのであるが、皇軍の向ふ處敵無く、爾來戦闘僅かに百餘日、世界戦史未曾有の記録を輝かして支那の首都南京を攻略するに到つた。

これ固より御稜威の然らしむる所であるが、陸海協力の下、統帥の卓越、將兵の忠勇、舉國一致後援の賜であつて、就中江南の華と散つた英靈

の加護に依るものと云ふ可く、轉た崇敬感謝の念を禁じ得ない次第である。

熟ら惟んみるに、上海南京一帯の攻略は、江南戦線に一段落を劃するものとして戰略上重大意義を有するもので、如何に彼等が宣傳維れ努むるも今や敗戦の實は掩ふ可くもあらず、長期抗戦の夢將に盡きんとする窮狀にあるのは疑ふ可くもない。

然しながら出師八十萬の内四十萬を失つても猶且敗殘兵を奥地に蟄居せしめ所謂「ゲリラ」戦術の負惜みを標榜し、ひたすら外力の支援を頼んで長期抗戦を策する限り、戦局の前途は猶遠遠と云ふ可く、國際動向亦一日の偷安を許さざる所あり、希くは一億同胞益々協力奮勵一意國難の打開に邁進し、愈々前線の軍容を齊ふると共に銃後の思想戦、經濟戦に萬遺憾無

きを期し、速に出師の目的を貫徹して東亞百年平和の礎を築成し、以て聖旨に應へ奉ることを期せねばならない。

以上は、概ね今次事變に於ける帝國海軍の直接的作戰行動を述べたのであるが、最後に國民諸君に更に深く考察して頂きたい一事がある。夫れは支那事變と並行して開催された聯盟總會や「ブラッセル」に於ける九ヶ國條約會議が何故に無爲に終り又第三國が何故に武力干渉に乗出し得なかつたかと言ふことである。茲に於て萬人の腦裡に浮ぶものは彼の永野大將の將旗を翻して西太平洋の制海權を握る我聯合艦隊の無言の勢威ではあるまいか。

支那事變海軍作戰經過一覽表

月日	海軍關係主要事項	その他の關係	海軍機主要空襲箇所	敵機擊破數
七、七		蘆溝橋事件		(各地に於ける擊墜擊破數の詳細は週報第六十一號參照)
七、二七		廟議派兵に決し政府聲明を發表す		
七、二九		駐屯軍獨自の行動を執るに決す		
八、一	第十一戰隊長江筋居留民引揚護衛に任す	通州事件		
八、四		重慶、宜昌、沙市居留民引揚		
八、七		長沙居留民引揚		
八、七	支那側停戰協定無視公然市政府附近其他に塹壕土囊を構築す	漢口居留民引揚		

八、八	第十一戰隊居留民引揚護衛終了 後漢口發下江	九江、大冶、鎮江、南京、鎮江、鎮江	
八、九	大山事件		
八、一〇	右事件實地檢證		
八、一一	支那軍租界周圍に地雷敷設包圍的態勢を示す		
八、一二	支那軍續々北停車場附近に到着す形勢不穩に鑑み陸戰隊警戒を嚴にす		
八、一三	特別陸戰隊支那正規兵の不法射撃を受け應戦す		
八、一四	支那飛行機上海國際社交場たる「カセイ」パレス兩ホテル及歡樂街大世界を爆撃す △支那機黃浦口碇泊中の米國軍艦「オーガスタ」を爆撃	杭州、笕橋、喬二〇數機 司、廣德飛行場	

八、一五	支那機揚子江附近碇泊中の英國軍艦「カムバライランド」を爆撃 △支那軍鎮江附近揚子江下流水路閉塞 △黃浦江上流閉塞（八月十二日より十七日の間）	帝國政府聲明發 表（聲明内容週報 第四四號附錄參 照）	南京、南昌、笕橋、紹興各飛行場	四〇數機
八、一六	陸戰隊北部に猛襲の敵を撃退す		南京、南昌、笕橋、紹興各飛行場	
八、一七	陸戰隊東部方面の敵と激戦す		南昌、楊州、句容、嘉興、虹橋各飛行場	約五〇機
八、一八	江上艦艇掩護射撃		蚌埠、淮陰、海壽	一〇機
八、一九	江上艦艇浦東の敵陣地を制壓す		南通、南翔及崑山鐵橋	
八、二〇	陸戰隊東部々々隊招商局碼頭占領		南京、火藥廠、參謀本部、軍官學校	
八、二〇	陸戰隊航空部隊と呼應し優勢を恃んで來襲の敵を撃攘す		廣德、九江	八機

九、五	陸戰隊北部及虹口方面砲撃の敵陣地に對し全砲火を以て粉碎す (週報第四八號參照)		上海戰線敵陣地	
九、六	我が軍艦陸軍部隊と協力租界東部の敵を攻撃	寶山城占領	汕頭、厦門 上海戰線敵陣地	
九、七			杭州、嘉興、廣德	五機
九、八			汕頭、崑山、上海 江鐵橋、上海戰線敵陣地	
九、九	陸戰隊東部枝隊軍工路、滬江大學の線に進出す		杭州、長興、汕頭、潮州	
九、一〇	病院那軍の不利加丸郵船碼頭に於て支那軍の不法射撃を受く		上海戰線敵陣地	
九、一一	我が軍艦浦東側招商局華棧倉庫の敵銃陣地を砲撃破壊	同 右		
九、一二	驅逐隊バイアス灣排牙山砲臺及廣東無電臺砲擊 △病院飛行機の不法爆撃を受く	陣地 市政府及戰線敵		
九、一三	陸戰隊遠東競馬場及崇德女學校を占據	上海戰線爆撃 杭州方面偵察		

九、一四	復旦大學女塾及粵東中學占領 陸戰隊砲擊 密集隊を砲撃大損害を與ふ 我が軍艦及驅逐隊廣東虎門砲臺 及砲臺下の支那巡洋艦二隻を砲撃破綻に厦門要塞砲撃		南翔、大場鎮及 其他の戰線敵陣地 地竝に據點	
九、一五		廣東		
九、一六		廣東、揭陽、潮州		
九、一七	我が陸戰隊夜間來襲の敵を反撃 大打撃を與ふ	上海戰線敵陣地 及密集部隊		
九、一八		虹橋、寬橋		
九、一九	第三艦隊司令官南京及附近在住の第三國人及支那非戰鬥員に對し通告及警告を發す 大舉南京を空襲す	南京、徐州	三二機	
九、二〇		南京、徐州、海州、蘇州、廣德	四機	
九、二一	大舉廣東を空襲す	天河、白雲、飛機場、連雲港		
九、二二	航空部隊江陰の敵軍艦を爆撃す	南京、廣東、濟寧、徐州、淮陰、兗州	四機	

一〇、八	陸戰隊三義里方面大逆襲の敵を撃退す 我が上海警泊艦浦東敵砲兵陣地を砲撃沈黙せしむ			廣東、英德、津浦線、粵漢線	
一〇、九				韶關、英德、虎門、泰安、兗州、從化、天河、東、天津、海線要地	二外に損傷六機
一〇、一〇	廣東方面敵航空兵力及同施設は本日迄に概ね壊滅せしむ				

○事變發生以來我が海軍の爆破せる支那飛行機數

擊墜	一七四	確實なるもの	一七四	計	一八一
地上爆破	一三六	稍確實を缺くもの	七		一四三
	三一〇		一四		三二四

○事變發生以來我が海軍飛行機の損害

一〇、一二	我が警泊艦招商局華棧及中國棉業公棧倉庫の浦東敵陣地を猛撃す			浙贛線要地（玉山、金華） 南昌、嘉定、太倉、蘇州、廣東、蘇州	
一〇、一三	陸戰隊北部方面大逆襲を撃退			粵漢線、常熟、嘉定、南京、順德、湖陽、松江、順德、肥州、南宮、杭州、常州、嘉興、徐州、海州、天津、隴	
一〇、一四	陸戰隊航空部隊と協力閩北南西部に猛烈なる砲爆撃を加ふ			吳江、滬杭甬線、詔關、粵漢線、廣九線、常州、蚌埠、鎮江、常州、浦線、杭州、銅九線、吳興線、廣九線、牛角山、島の西五連	三機
一〇、一五					

一〇、一六	陸戰隊航空部隊と共に閩北廣東 中學校及江灣南方商學院の敵を 攻撃大損害を興ふ		錫滬杭甬線、撫 嘉定	若干
一〇、一七	陸戰隊閩北三義里附近滬北中學 の敵、北部方面五、三十小學校 吳民思園及商學院の敵陣地を砲 爆撃す	陳家行占領	吳興線、京滬線 滬杭甬線、津浦線	
一〇、一八			漢口、京滬線、 滬杭甬線、津浦線、 真茹	三〇數機
一〇、一九	陸戰隊航空部隊と共に閩北の敵 要點鐵道管理局を砲爆撃災上せ しむ		江、南京、無錫、 杭甬線、滬線、 津浦線、廣九線、 滬九線	數機
一〇、二〇			衡陽、南京、 滬九線、滬杭甬線、 廣九線、南昌	一機
一〇、二一	陸戰隊航空部隊と協力閩北敵據 點を砲爆撃す		滬杭甬線、滬線、 津浦線、廣九線	
一〇、二二	江上艦艇江灣鎮、浦東、楊林口 方面の敵陣地及部隊を砲撃		南京、京滬線、 津浦線、安慶、 廣九線、粵漢線	一機

一〇、二三	南京上流三〇浬東岸に於て敵巡 應瑞爆撃	大場鎮、江灣鎮 方面に對し總攻 撃開始	隴海線、南京、 安慶、南昌、廣 九線、粵漢線、 新寧線	
一〇、二四	我が軍艦江灣鎮の敵を砲撃す	復旦大學占據	津浦線、隴海線、 南京、漢口、廣 九線	四機
一〇、二五	陸戰隊陸軍部隊と協力商科大學 (江灣鎮南方一軒)占領		粵漢線、新寧線 外に若干	
一〇、二六	陸戰隊北四川路方面敵の大逆襲 を反撃しつ、逐次前進す 我が軍艦、驅逐艦より派出の陸 戰隊厦門金門島の敵を掃蕩す	廟行鎮、大場鎮 占領	津浦線、隴海線 上海戰線敵陣地	
一〇、二七	陸戰隊鐵路管理局、北停車場、 閩北全部及真茹驛を占領す	江灣鎮占領	敗走敵部隊及後 方敵陣地	
一〇、二八	江上の我が軍艦、驅逐艦浦東敵 陣地を砲撃 四行倉庫籠城の敵敗殘兵に對し 監視竝に降伏勸告		津浦線、隴海線	
一〇、二九	同右 我が艦載水雷艇に對する英國陸 軍士官阻止事件		上海戰線敵陣地 松江、南翔、太倉 崑山、常熟、蘇州	

一〇、三〇	江上の我が軍艦、驅逐艦浦東敵陣地を砲撃	蘇州、崑山、太倉、常熟
一〇、三一	敵視立に降伏勧告	
一一、一	陸軍部隊の四行倉庫を占領	蘇州河渡河敢行
一一、二	陸戦隊江上艦艇協力浦東敵陣地を猛撃	上海戦線敵陣地
一一、三	同右	廣九線、津浦線
一一、四	同右	歸德線
一一、五	海上、航空部隊杭州灣北岸に於ける陸軍部隊敵前上陸に協力	隴海線、廣九線、南翔、松江、蘇州
一一、六		陸軍部隊に協力
一一、七		廣九線、粵漢線、海州
		上海戦線敵據點
		廣東方面軍事輸送施設
		戰線及南支軍事輸送施設

一一、八		松江占領	戦線及津浦線隴海線
一一、九			敵退却部隊據點
一一、一〇	我が艦艇黃浦江閉塞啓開に任ず	嘉善占領	南京、厦門、漳
一一、一一	陸戦隊浦東に上陸敗殘兵及便衣隊掃蕩		上海方面戦線及
一一、一二	陸戦隊南市に上陸		南京、隴海線、
一一、一三	陸戦隊南市一帯占領		津浦線、
一一、一四	白茆口敵前上陸協力	陸軍部隊白茆口敵前上陸	追撃戦協力
一一、一五	我が軍艦南市江岸に於て敵國汽船一〇隻ヲヤンク四〇〇隻抑留	太倉占領	陸戦協力、厦門
一一、一六	我が艦艇黃浦口清掃並敵船艇一隻抑留	崑山占領	陸戦協力
			厦門大磐角砲臺
			南京
			上海及黄河方面
			陸軍作戦協力
			上海方面戦線敵
			部隊及據點
			二機

一一、一七	我が軍艦黃浦江船艇運輸を嚮導す	蘇州河及黃浦江上流船艇運輸開始	(天候不良特記すべきことなし)
一一、一八	黃浦江水路啓開成る	常熟、蘇州、嘉興占領	南支方面軍事輸送施設
一一、一九	我が艦艇黃浦上流を掃海	同右	
一一、二〇	大本營を宮中に設置せらる 聯合艦隊及支那方面艦隊司令長官に優渥なる勅語を賜ふ 支那方面艦隊司令官單一指揮下に支那沿岸交通遮斷實施により長官聲明發表	敵敗走部隊及後方據點	
一一、二一	我が艦艇より派遣陸戰隊吳福陣地最北端福山鎮占領	周家口追撃戦協力	一二機外に數機
一一、二二	我が艦艇松江以西の黃浦江、各クワイク太湖等の水路探究警戒に任ず	南京、周家口、陸上戦線協力	一三機
一一、二三	我が驅逐艦廈門島東岸及三都澳(福州東北約八〇浬)敵陣地砲撃	津浦線、隴海線追撃戦協力	
一一、二四	我が驅逐艦廈門島東岸敵陣地を砲撃	門、津浦線、隴海線、陸上追撃戦協力	五機

一一、二五	無錫占領	南京、洛陽、津浦線、廣九線	五機
一一、二六	長興占領	津浦線、隴海線、陸軍追撃戦協力	
一一、二七		西安、津浦線、廣九線、追撃戦	
一一、二八	我が艦艇許浦口方面に進出揚子江本流水路廈門東岸敵陣地砲撃	廣東、肇縣、廣九線、後方敵陣地	
一一、二九	我が艦艇江陰附近水路啓開に任ず	洛陽、粵漢線、敵敗走部隊及據點	二機
一一、三〇		肅山、江陰	
一一、三一	我が艦艇黃浦江上流及太湖南方水路開拓陸軍作戦に協力	江陰、廣東	
一一、三二	我が艦艇段山附近迄の揚子江水路清掃終了	南京、廣東	一三機
一一、三三		陸軍部隊上海租界、江陰、天	



一三、	四	我が艦艇長山北方閉塞部の下流南水道水路を啓開す	深水占領	南京、蘭州、九陰、粵漢線、廣江	一六機 外十數機
一二、	五	我が軍艦、驅逐艦三竈島掃蕩完了我が驅逐艦廈門北東方敵陣地砲撃	句容占領	南京、天、州、漢、廣、九、杭	
一一、	六	我が驅逐艦福沙水道清掃		漢、浦、各、廣、九、粵	
一〇、	七	我が艦艇江陰に至る水路清掃	寧國(宣城)占領	安、浦、漢、廣、九、湖、海、協	
九、	八	我が軍艦及航空部隊揚子江渡河八圩附近陸戦に協力我が艦艇連成州附近迄遡江略掃陸隊萬山群島揚海及水雷艇一隻捕獲	靖江占領	粵、漢、廣、九、南京	
八、	九	我が艦艇三江營附近の水路略掃	南京敵軍に對し投降勸告、鎮江占領、蕪湖、鎮江占領	津、浦、廣、九、南京	二五機

○事變發生以來我が海軍の爆破せる支那飛行機數

擊墜	二一六	確實なるもの	計
地上爆破	二三八	稍確實を缺くもの	二二七
	四五四		四五九
			四八六

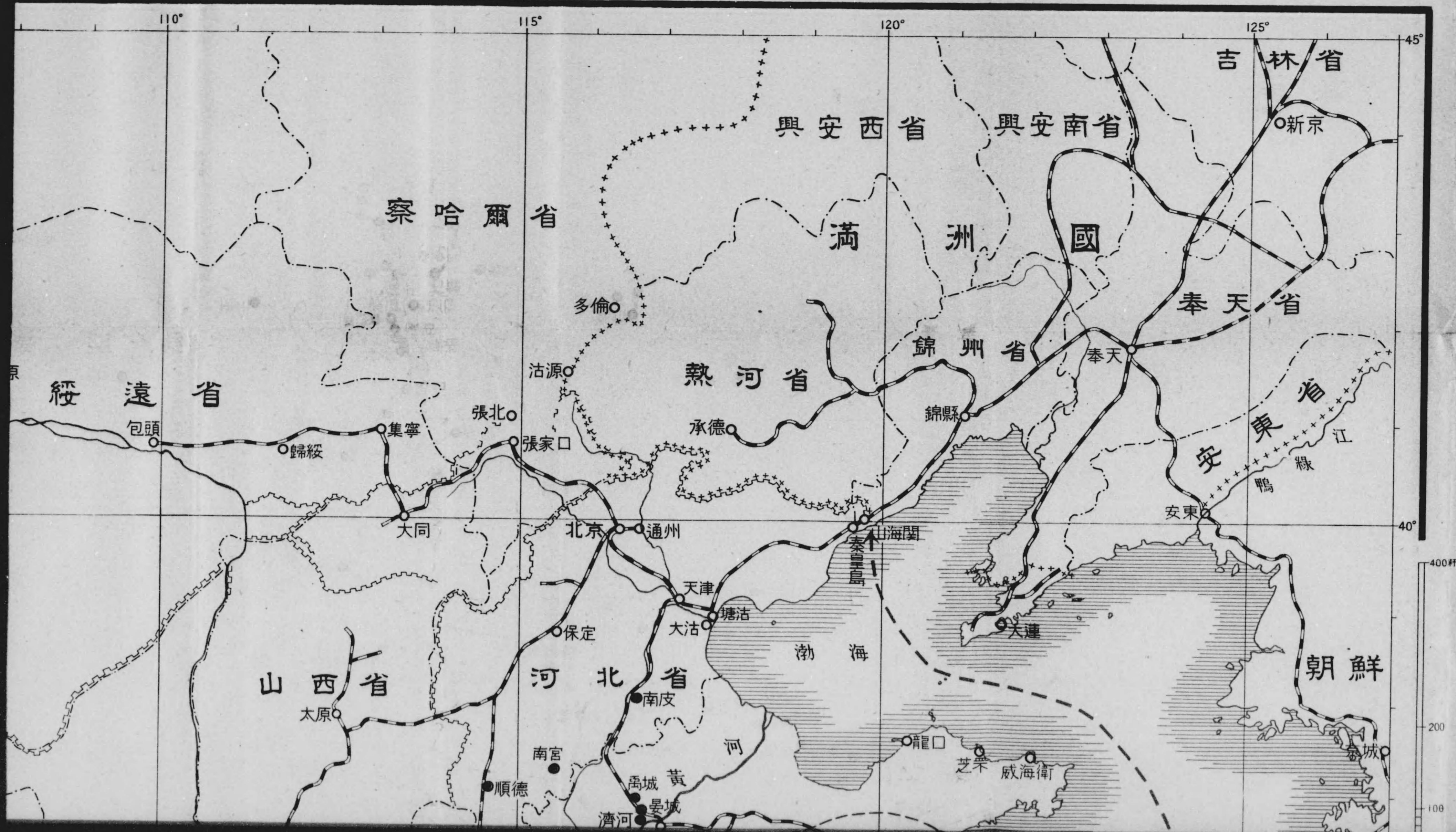
○事變發生以來の我が海軍機の損害

六一機

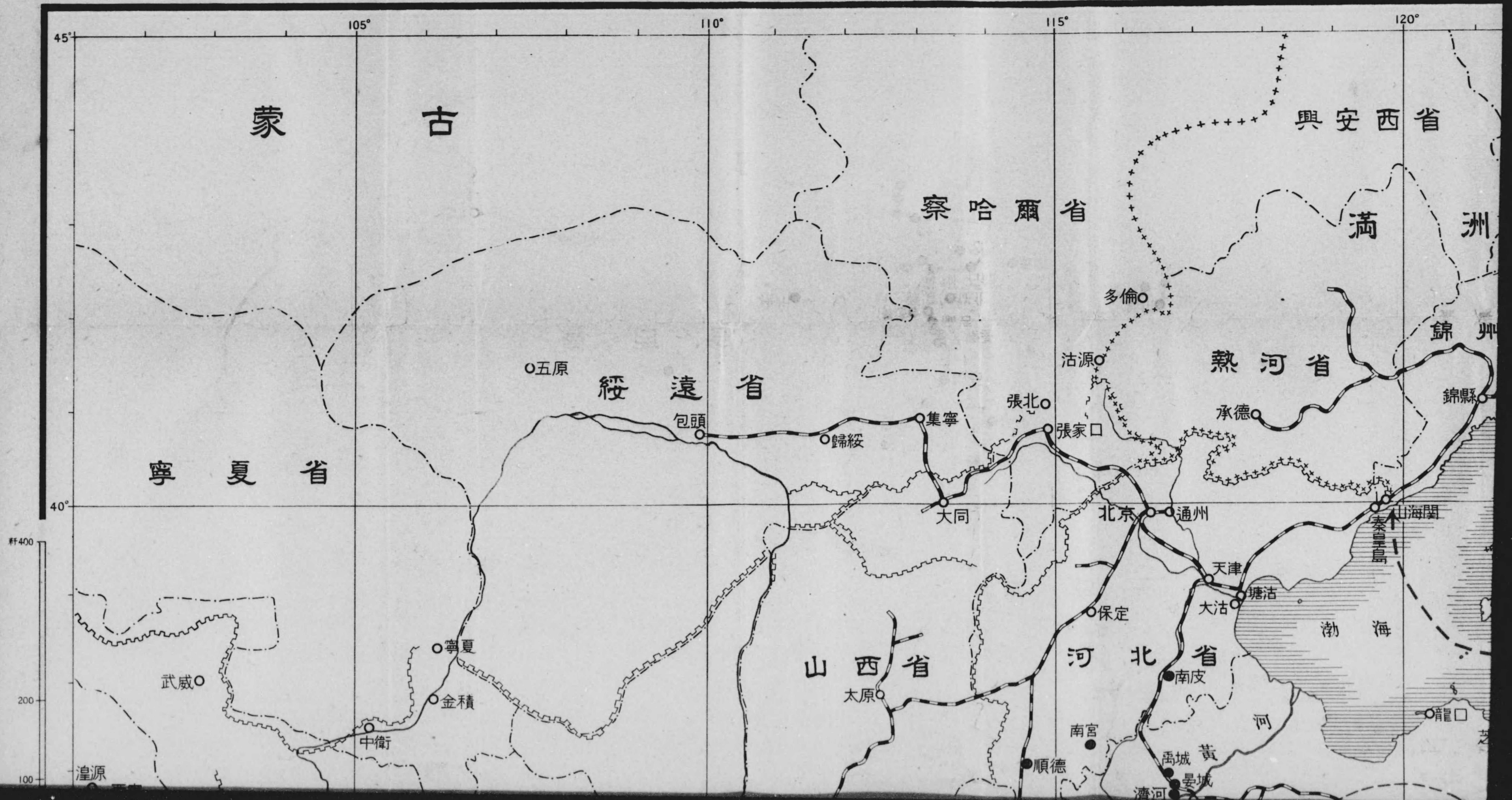
一二、一〇	敵軍投降勸告に應せず總攻撃開始	鎮江附近敵砲臺	數機
		衢州	
		南京	
一二、一一	我が艦艇水路啓開鎮江に進出我が驅逐艦より派遣の陸隊尹公州上陸、陸軍部隊と協力焦山占領	鎮江附近敵砲臺	數機
		南京	
		洛陽	
		南京	

一二、一七	南京入城式	同上	粵漢、廣九各線 天河、白雲	
一二、一六	我が軍艦寶塔水道一帯殘敵掃蕩		杭州	
一二、一五	我が艦艇南京附近江岸敵敗殘兵力の掃蕩及浦口方面上陸作戦協力		津浦線 廣州、蚌埠、淞縣	二機
一二、一四	我が軍艦一帯占據 我が艦艇米艦「パネー」救援に従事		津浦線、廣九線 南昌、安慶	三五機
一二、一三	我が軍艦、驅逐艦海軍碼頭、中山碼頭一帯占據	南京及浦口を占領	粵漢線 南京、略略戰協力 衢州、吉安	三機
一二、一二	我が軍艦江岸の敵砲臺、陣地より砲撃を反撃しつゝ、霞棲山前面の閉塞線に到達掃海並に水路啓開 我が航空部隊南京上流二五湮の江上にて誤認のため米國軍艦「パネー」を爆沈英砲艦二英商船一を爆撃 一、英砲艦「レデー」を爆撃 一、英商船一誤認のため砲撃 一、英商船一誤認のため砲撃 一、英商船一誤認のため砲撃		廣九線 南昌、西安 南京攻略戰協力 敵敗殘兵爆撃	約一四機

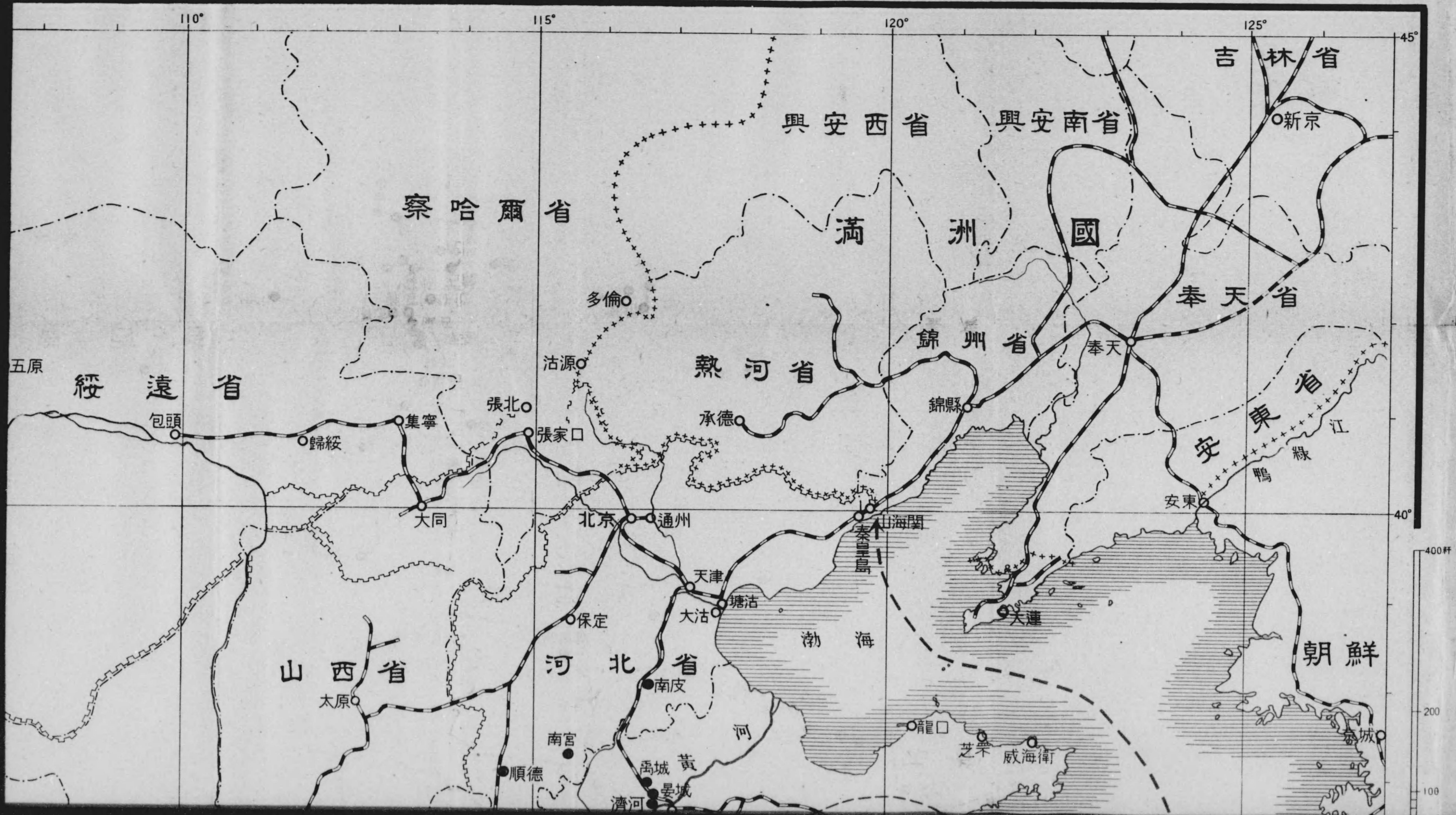
支那事變關係圖

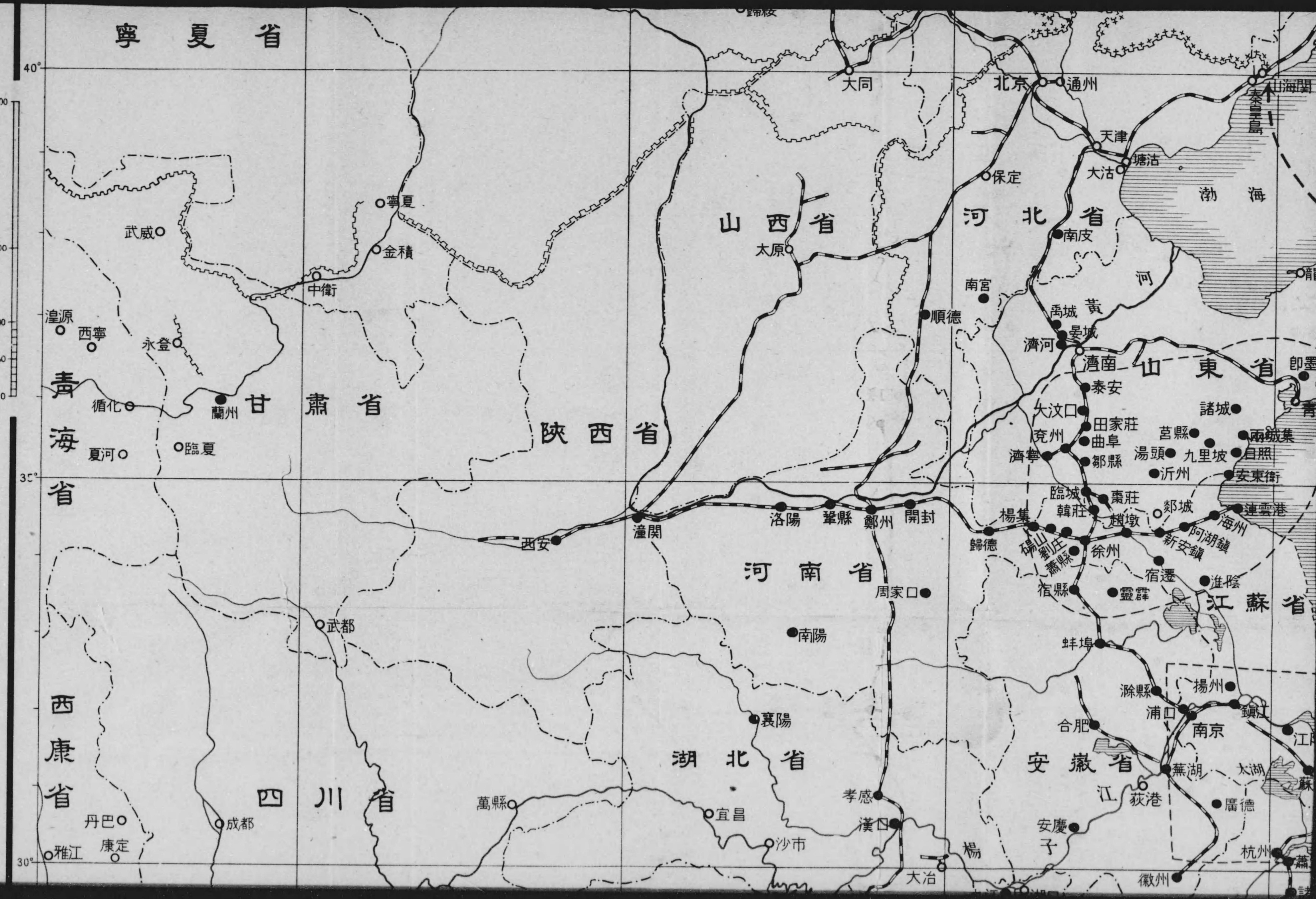


支那事變關係圖



支那事變關係圖





寧夏省

40°

400
200
100
50
0

青海省

30°

西康省

30°

四川省

陝西省

山西省

河北省

河南省

湖北省

安徽省

山東省

江蘇省

武威
金積
中衛
蘭州
臨夏
循化
夏河

湟源
西寧
永登

武都

丹巴
康定
雅江

寧夏
金積
中衛

蘭州
臨夏

武都

成都

寧夏
金積

蘭州

武都

成都

西安

萬縣

潼關

洛陽

鞏縣

鄭州

開封

周家口

南陽

襄陽

萬縣

宜昌

沙市

漢口

孝感

大冶

楊

安慶

子

蕪湖

荻港

安慶

子

蕪湖

荻港

安慶

子

蕪湖

荻港

安慶

子

蕪湖

荻港

安慶

子

蕪湖

荻港

安慶

子

蕪湖

荻港

安慶

子

蕪湖

荻港

安慶

子

蕪湖

荻港

安慶

子

蕪湖

荻港

安慶

子

蕪湖

荻港

安慶

子

蕪湖

荻港

安慶

子

蕪湖

荻港

安慶

子

蕪湖

荻港

安慶

子

蕪湖

荻港

安慶

子

蕪湖

荻港

安慶

子

蕪湖

荻港

安慶

子

蕪湖

荻港

安慶

子

蕪湖

荻港

安慶

子

蕪湖

荻港

安慶

子

蕪湖

荻港

安慶

子

蕪湖

荻港

安慶

子

蕪湖

荻港

安慶

子

蕪湖

荻港

安慶

子

蕪湖

荻港

安慶

子

蕪湖

荻港

安慶

子

蕪湖

荻港

安慶

子

蕪湖

荻港

安慶

子

蕪湖

荻港

安慶

子

蕪湖

荻港

安慶

子

蕪湖

荻港

安慶

子

蕪湖

荻港

安慶

子

蕪湖

荻港

安慶

子

蕪湖

荻港

安慶

子

蕪湖

荻港

安慶

子

蕪湖

荻港

安慶

子

蕪湖

荻港

安慶

子

蕪湖

荻港

安慶

子

蕪湖

荻港

安慶

子

蕪湖

荻港

安慶

子

蕪湖

荻港

安慶

子

蕪湖

荻港

安慶

子

蕪湖

荻港

安慶

子

蕪湖

荻港

安慶

子

蕪湖

荻港

安慶

子

蕪湖

荻港

安慶

子

蕪湖

荻港

安慶

子

蕪湖

荻港

安慶

子

蕪湖

荻港

安慶

子

蕪湖

荻港

安慶

子

蕪湖

荻港

安慶

子

蕪湖

荻港

安慶

子

蕪湖

荻港

安慶

子

蕪湖

荻港

安慶

子

蕪湖

荻港

安慶

子

蕪湖

荻港

安慶

子

蕪湖

荻港

安慶

子

蕪湖

荻港

安慶

子

蕪湖

荻港

安慶

子

蕪湖

荻港

安慶

子

蕪湖

荻港

安慶

子

蕪湖

荻港

安慶

子

蕪湖

荻港

安慶

子

蕪湖

荻港

安慶

子

蕪湖

荻港

安慶

子

蕪湖

荻港

安慶

子

蕪湖

荻港

安慶

子

蕪湖

荻港

安慶

子

蕪湖

荻港

安慶

子

蕪湖

荻港

安慶

子

蕪湖

荻港

安慶

子

蕪湖

荻港

安慶

子

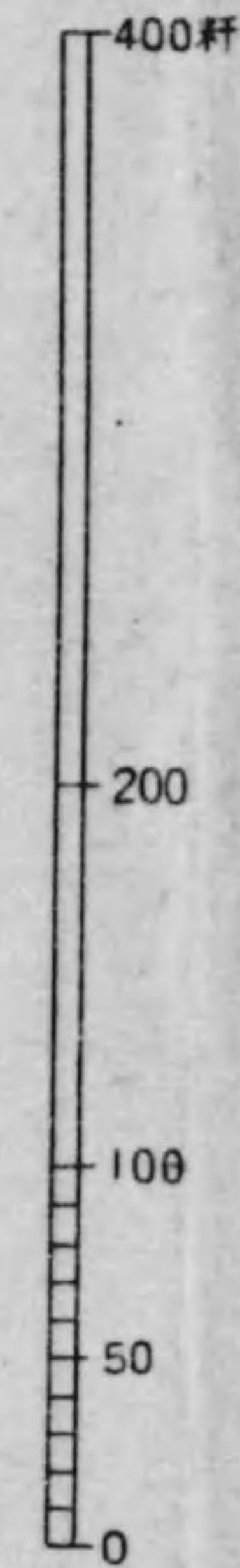
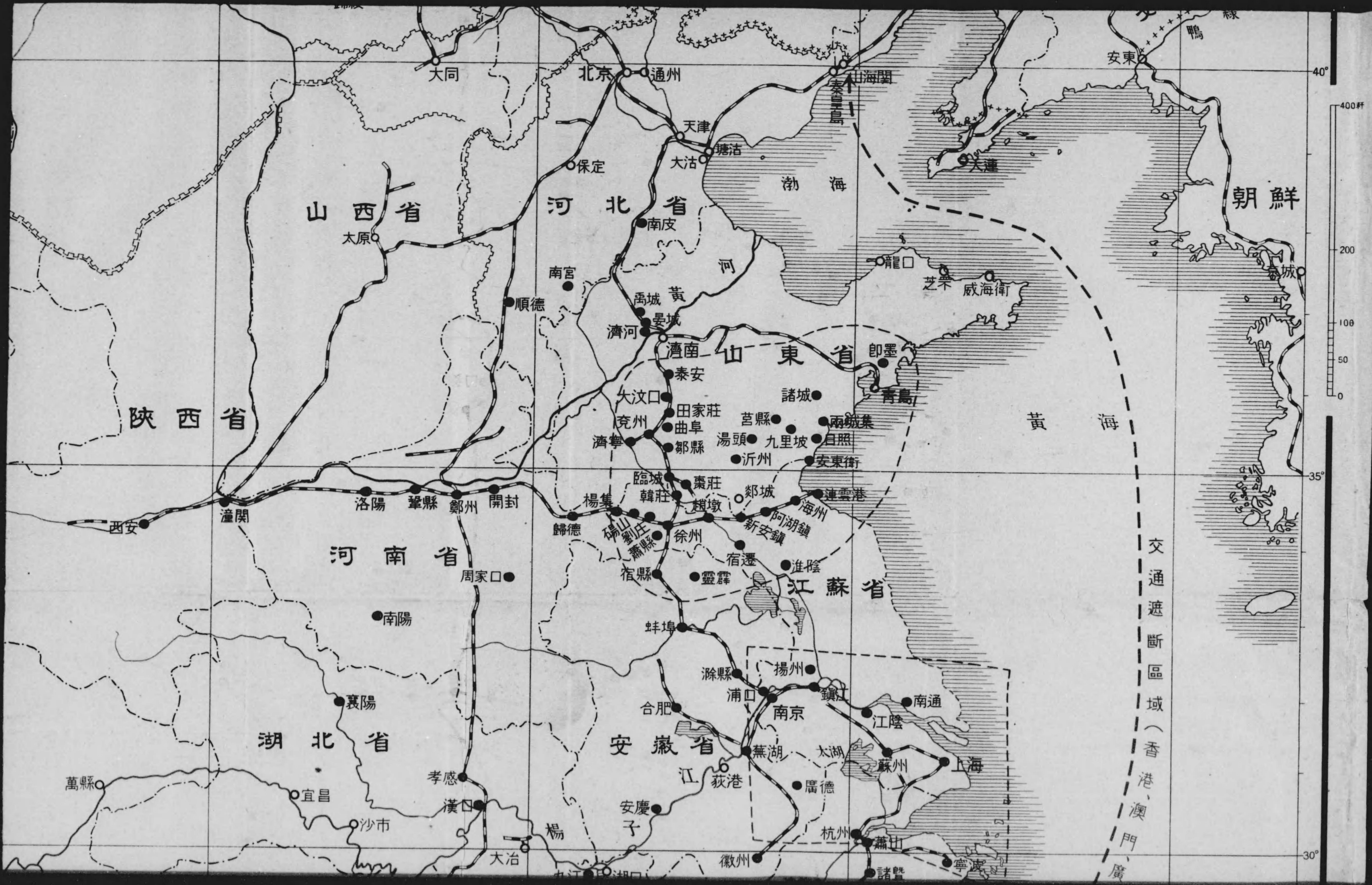
蕪湖

荻港

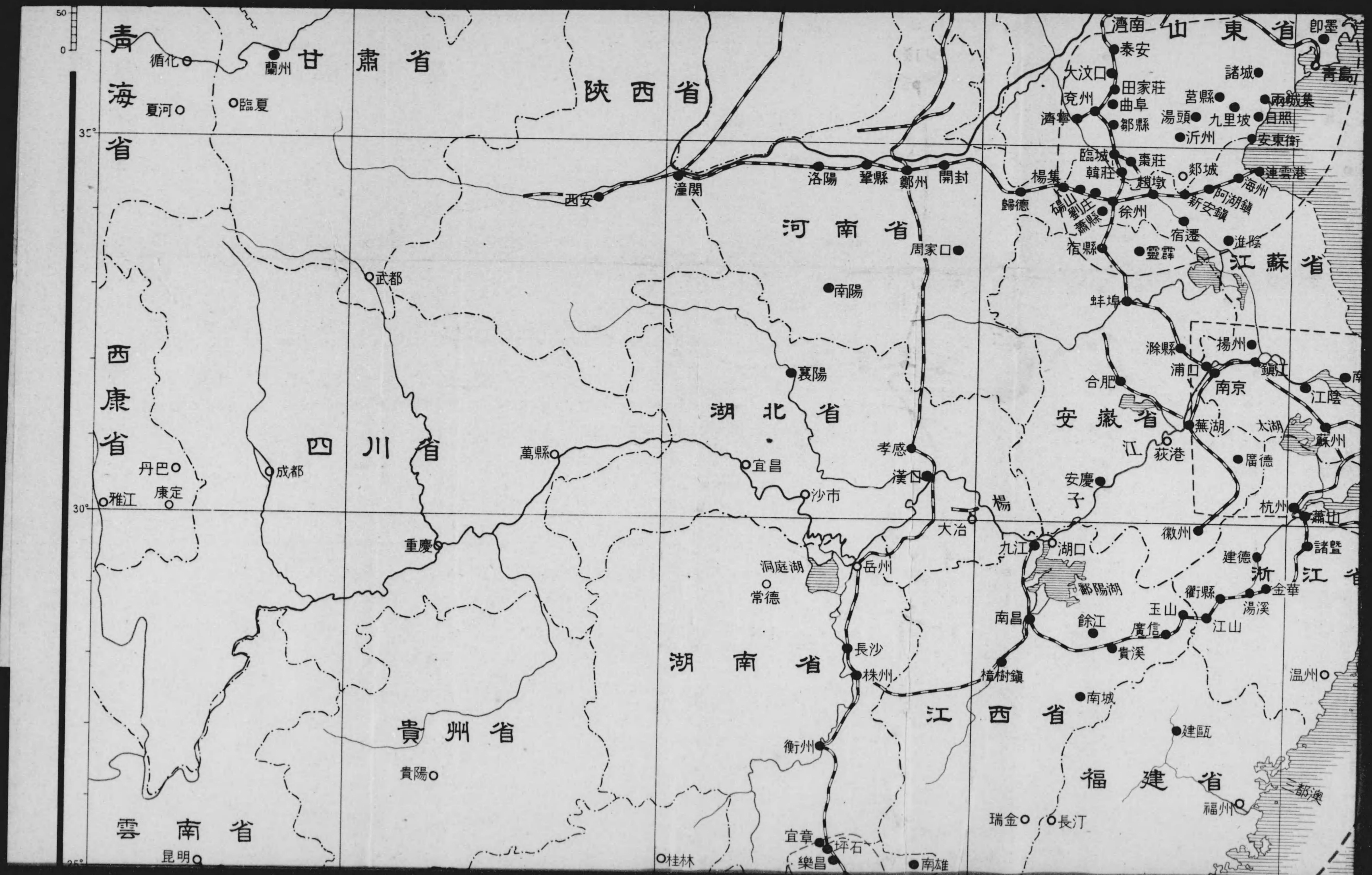
安慶

子

<



交通遮斷區域 (香港、澳門、廣)



青海省

甘肅省

陝西省

山東省

西康省

四川省

河南省

湖北省

安徽省

江蘇省

雲南省

貴州省

湖南省

江西省

福建省

浙江省

循化
夏河
臨夏

蘭州

西安

潼關

洛陽

鞏縣

鄭州

開封

濟寧

兗州

田家莊

曲阜

鄒縣

臨城

韓莊

棗莊

趙墩

歸德

碭山

劉莊

蕭縣

宿遷

新安鎮

周家口

南陽

襄陽

孝感

漢口

常德

岳州

長沙

株州

衡州

宜章

坪石

南雄

桂林

濟南

泰安

諸城

莒縣

湯頭

九里坡

日照

沂州

安東街

兩城集

海州

連雲港

楊集

臨沂

新沂

宿遷

阿湖鎮

海州

宿縣

靈璧

淮陰

宿遷

蚌埠

滁縣

浦口

揚州

南京

鎮江

蕪湖

荻港

太湖

合肥

安慶

子

蕪湖

廣德

蘇州

九江

湖口

鄱陽湖

南昌

徽州

建德

南昌

餘江

玉山

廣信

貴溪

江山

樟樹鎮

南城

建甌

温州

瑞金

長汀

福州

都澳

丹巴

康定

雅江

成都

萬縣

宜昌

沙市

大冶

九江

湖口

鄱陽湖

南昌

徽州

建德

諸暨

衢縣

金華

湯溪

玉山

廣信

貴溪

江山

樟樹鎮

南城

建甌

温州

瑞金

長汀

福州

都澳

昆明

貴陽

衡州

宜章

坪石

南雄

桂林

濟南

泰安

諸城

莒縣

湯頭

九里坡

日照

沂州

安東街

兩城集

海州

連雲港

楊集

臨沂

新沂

宿遷

阿湖鎮

海州

宿縣

靈璧

淮陰

宿遷

蚌埠

滁縣

浦口

揚州

南京

鎮江

蕪湖

荻港

太湖

合肥

安慶

子

蕪湖

廣德

蘇州

九江

湖口

鄱陽湖

南昌

徽州

建德

南昌

餘江

玉山

廣信

貴溪

江山

樟樹鎮

南城

建甌

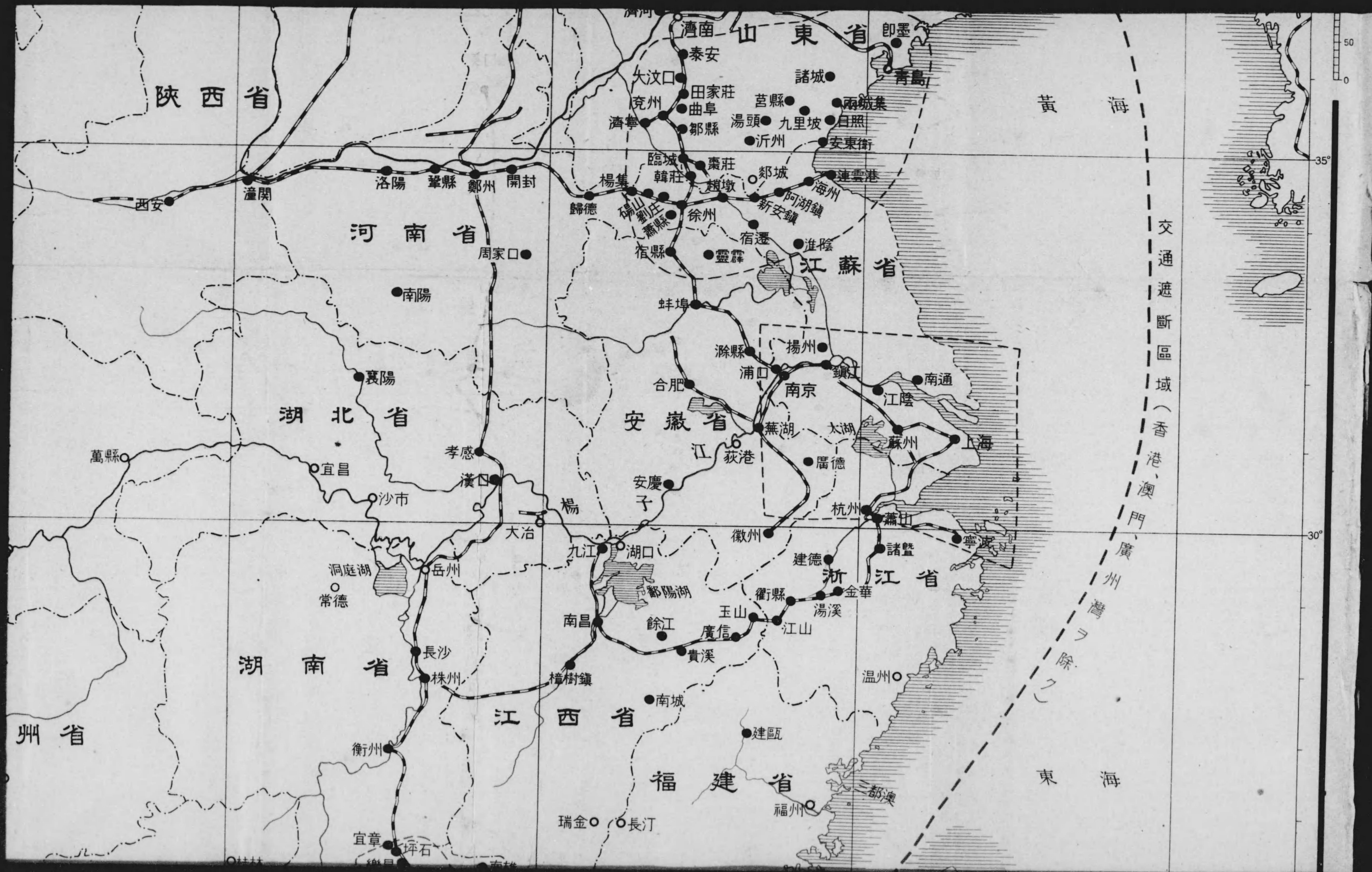
温州

瑞金

長汀

福州

都澳



陝西省

山東省

黃海

河南省

江蘇省

湖北省

安徽省

湖南省

江西省

浙江省

福建省

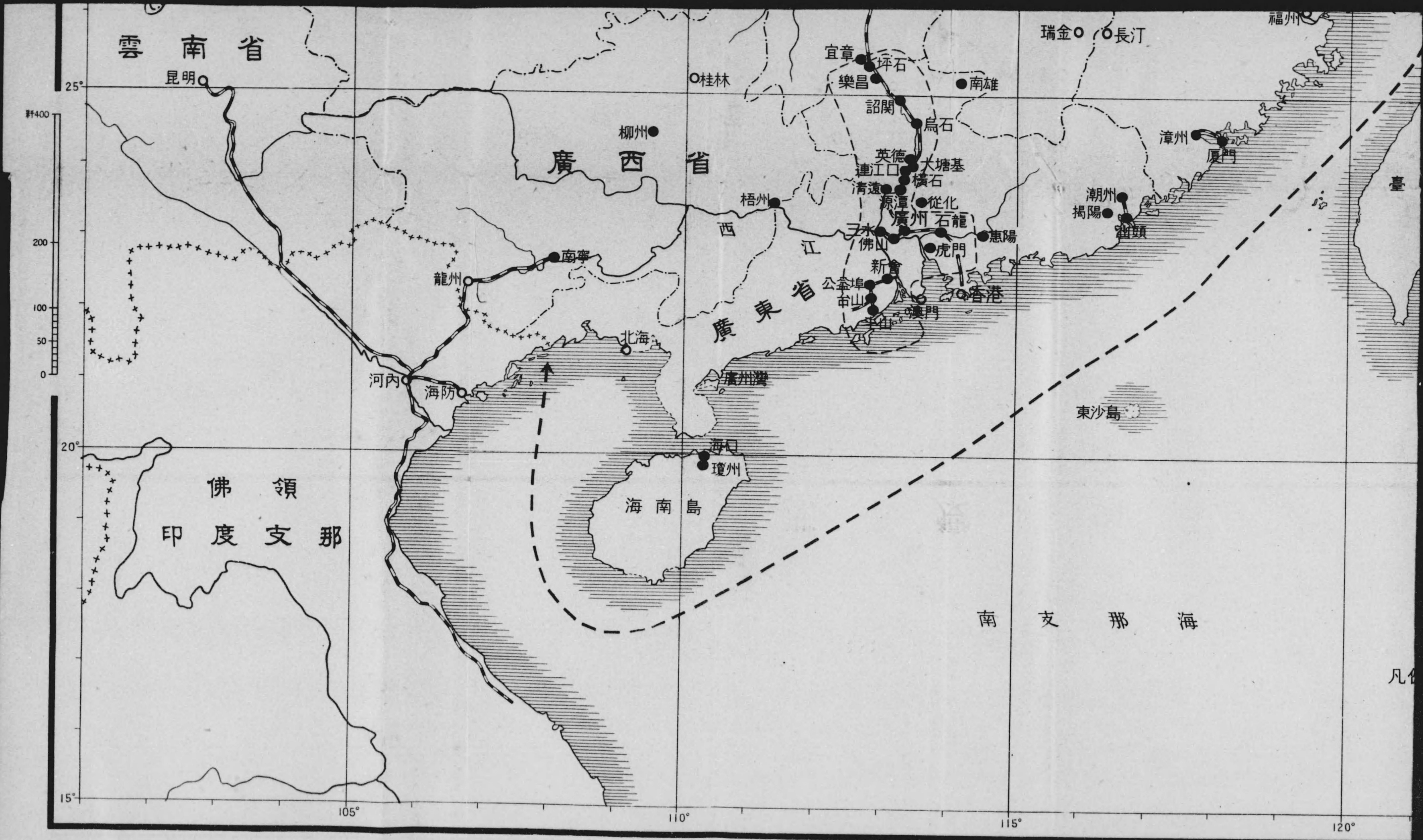
東海

交通遮斷區域(香港、澳門、廣州灣、除)

50
0

35°

30°



雲南省

昆明

廣西省

柳州

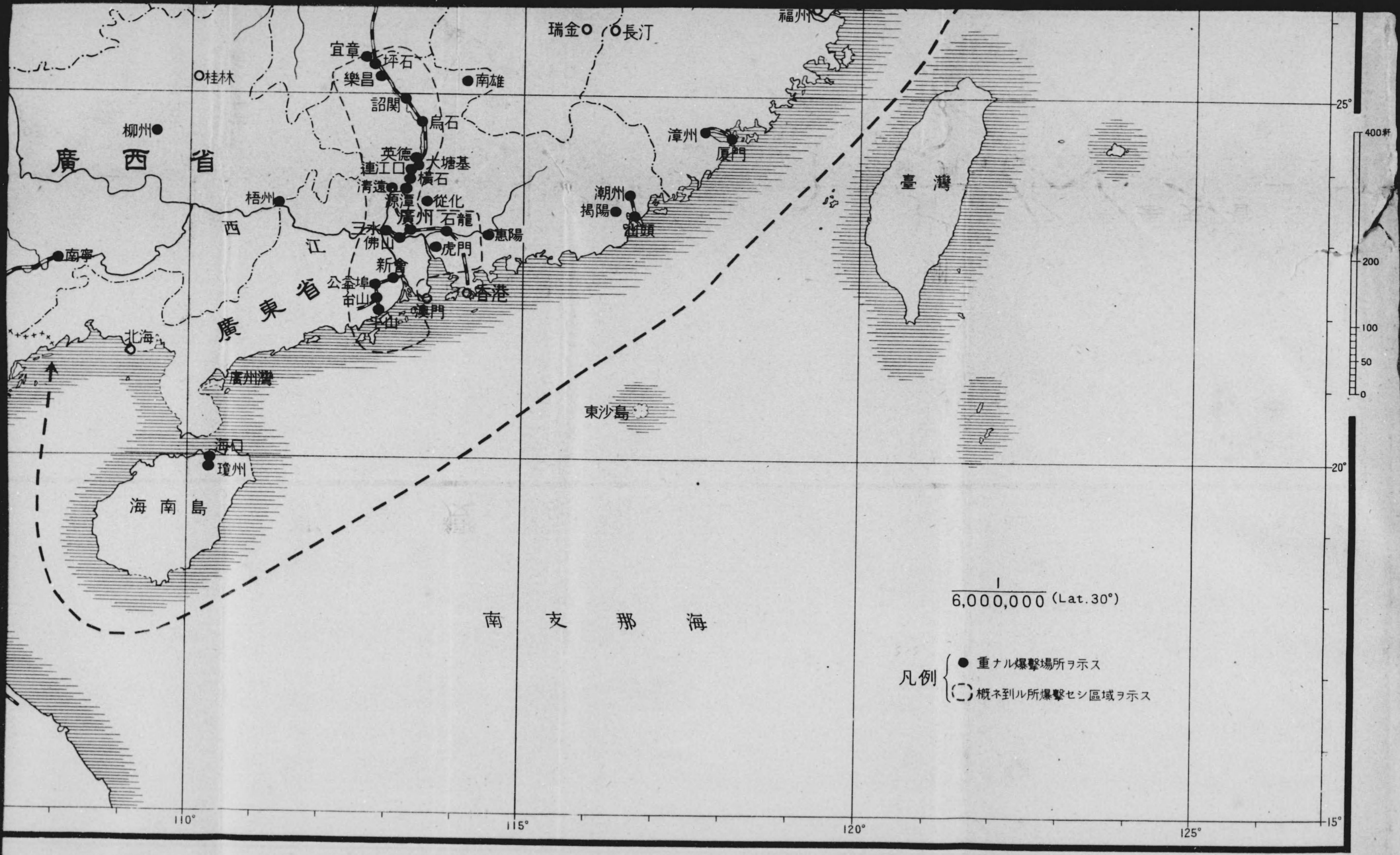
廣東省

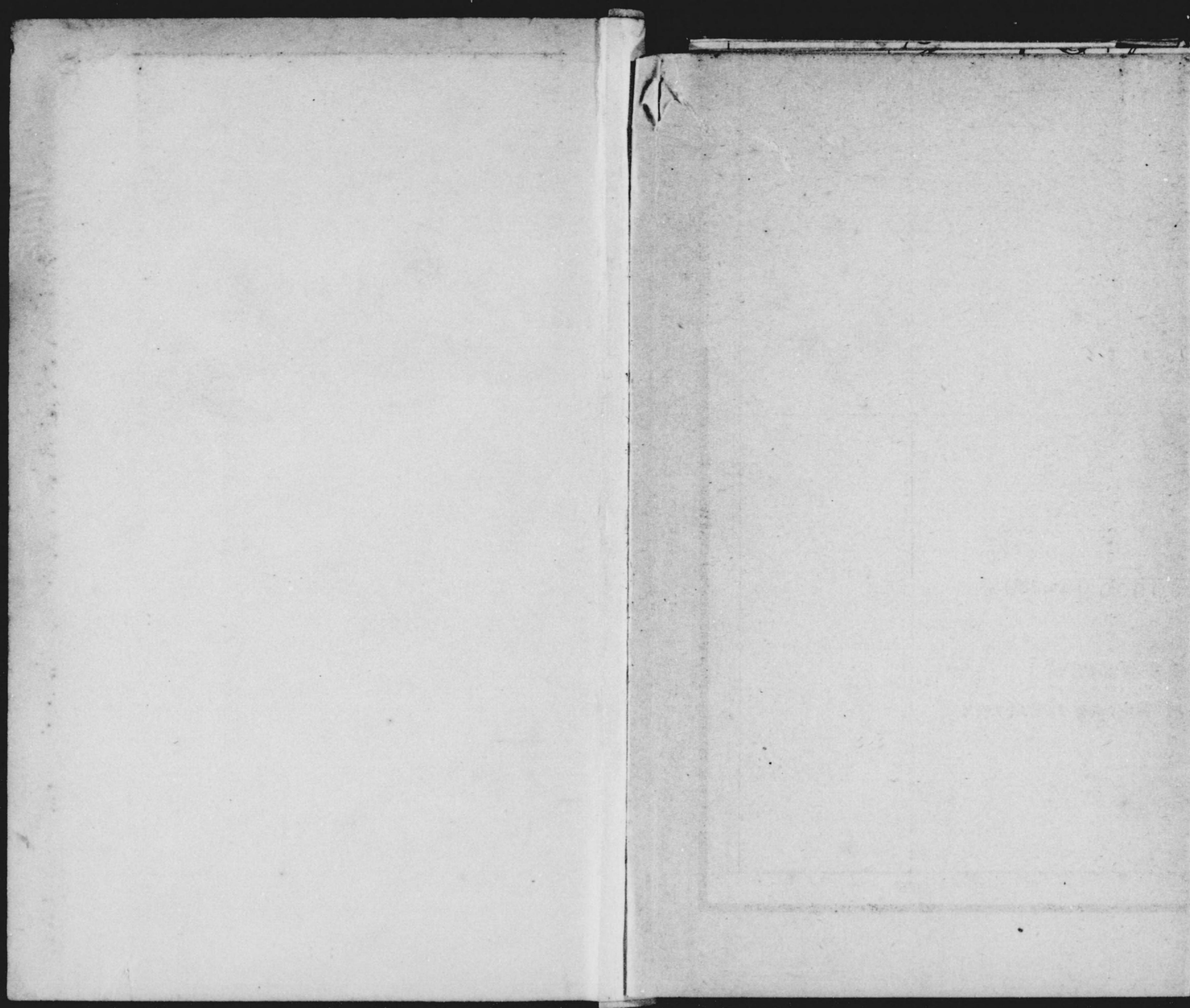
佛領
印度支那

海南島

南支那海

凡







戰中空大ノ空上昌南日九月二十
ルタセ馳ヲ名勇リヨニリ當體テニ

姿雄ノ機村樫

715
152



